



Java Desktop System Release 3 シ ステム管理

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-0665-10
2005 年 2 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Sun のロゴ、AnswerBook、AnswerBook2 Java、mediaLib、Sun Ray、は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Macromedia, Inc. の Macromedia Flash Player 技術が含まれます。Copyright© 1995-2002 Macromedia, Inc. All rights reserved. Macromedia、Flash および Macromedia Flash は、米国および海外における Macromedia, Inc. の商標もしくは登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System Release 3 Administration Guide*

Part No: 817-7306-10

Revision A



041117@10082



目次

はじめに	7
1 GConf の使用方法	13
GConf の概要	13
GConf リポジトリ	14
GConf 構成ソース	15
GConf スキーマ	16
GConf スキーマ定義ファイル	17
GConf デーモン	18
1 つの GConf デーモンのインスタンスを使用するように Java Desktop System を設定する	19
GConf コマンドラインツール	20
設定値の設定	23
一般的な環境の設定	23
HTTP プロキシの設定	24
ワークスペース数の設定	24
キーボードアクセシビリティの設定	24
キーボードショートカットの設定	25
パネルとパネルオブジェクトの設定	25
ルック&フィールの設定	29
フォントの設定	30
背景の設定	30
スプラッシュイメージの設定	31
デフォルト設定値の復元	31

2	メニューのカスタマイズ	33
	メニューの概要	33
	ファイル抽象レイヤー	34
	vfolder とメニュー	34
	デスクトップエントリファイル	36
	ディレクトリエントリファイル	38
	メニューの編集	38
	メニューの追加	39
	メニューへの項目の追加	40
	メニューの設定を編集する	40
	メニュー項目を編集する	40
	メニューから項目を削除する	41
	ユーザーが変更できないメニューの設定	41
3	テーマのインストール	43
	テーマの概要	43
	テーマのインデックスファイル	44
	新しいコントロールオプションをインストールする	45
	新しいウィンドウフレームのオプションをインストールする	46
	新しいアイコンオプションをインストールする	46
	テーマ用の新しいアイコンのインストール	47
	カスタムコントロールオプションを作成する	48
4	フォントの設定	51
	フォント設定の概要	51
	フォント置換	51
	すべてのユーザーにフォントを追加する	52
	個別ユーザーにフォントを追加する	52
5	MIME タイプ	55
	MIME タイプの概要	55
	MIME データベース	56
	MIME データベースの構造	56
	match 要素の属性	58
	MIME データベースから生成されるファイル	59
	MIME データベースへの MIME タイプの追加	60
	デスクトップへのアプリケーションの追加	61

6	スクリーンセーバーの設定	63
	スクリーンセーバーの概要	63
	スクリーンセーバーの設定	63
	スクリーンセーバーディスプレイの変更	65
	Solaris システム上でスクリーンセーバーディスプレイを追加する	65
	Solaris システム上でスクリーンセーバーディスプレイを削除する	65
7	セッション管理	67
	セッションの概要	67
	セッションのデフォルトの設定	68
	Solaris システム上でのログインスクリプトの使用	68
8	ヘルプシステム	71
	ヘルプシステムの概要	71
	JDSHelp ブラウザ	71
	Yelp ブラウザ	72
	OMF ファイル	72
	ScrollKeeper カタログ作成システム	72
9	パフォーマンスの改善	75
	パフォーマンスの改善の概要	75
	CPU 使用率の低減	75
	CPU リソースをあまり必要としないコントロールテーマオプションを使用する	76
	CPU リソースをあまり必要としないウィンドウフレームオプションを使用する	76
	メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす	77
	スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす	78
	パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす	78
	ファイルマネージャのパフォーマンスの改善	78
	省リソースモードを有効化して CPU 使用率を減らす	81
	Solaris システムで mediaLib ライブラリを使用する	81
	X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減	82
	ネットワークトラフィックの少ないウィンドウフレームテーマオプションを使用する	82
	メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす	82
	省リソースモードを有効化してネットワークトラフィックを減らす	83
	Solaris システムで色の使用を減らし表示品質を改善する	83

websafe カラーパレットを使用するテーマオプションを使用する	84
メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす	84
スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす	84
デスクトップ背景に単一色を使用して色の使用を減らす	84

10 Java Desktop System の機能の無効化	87
Java Desktop System の機能の無効化の概要	87
スクリーンロックを無効にする	87
ログアウトを無効にする	88
強制終了操作を無効にする	88
コマンドライン操作を無効にする	89
パネル設定を無効にする	89
アプリケーションを制限する	90

A 隠しディレクトリ	93
-------------------	-----------

用語集	95
-----	----

索引	99
----	----

はじめに

『Java Desktop System Release 3 システム管理』では、以下のリリースを実行するシステムの管理方法を説明します。

- Sun Java™ Desktop System Release 3 (SPARC® プラットフォーム用 Solaris™ オペレーティングシステム向け)
- Sun Java Desktop System Release 3 (x86 プラットフォーム用 Solaris 9 オペレーティングシステム向け)

このマニュアルに記載される情報の大部分は、Java Desktop System のすべてのリリースで共通です。汎用的でない情報については、プラットフォームを明示していません。

対象読者

このマニュアルは、Java Desktop System Release 3 を実行する 1 つまたは複数のシステムの管理者を対象にしています。Java Desktop System Release 3 の使用方法については、『Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド』を参照してください。

このマニュアルをお読みになる前に

このマニュアルを読む前に、次のトピックについて知っておく必要があります。

- UNIX® システム管理
- XML (Extensible Markup Language) ファイルの構造
- システム管理を行う上での XML ファイルの使用方法

内容の紹介

このマニュアルは、次のように構成されています。

- 第 1 章は、GConf を使用したユーザー設定の管理方法について説明しています。
- 第 2 章は、メニューの実装およびメニューのカスタマイズ方法について説明しています。
- 第 3 章は、Java Desktop System で利用可能なテーマの種類、テーマのインストール方法、およびカスタムテーマの作成方法について説明しています。
- 第 4 章は、Java Desktop System でのフォントの設定方法について説明しています。
- 第 5 章は、アプリケーションがどのように MIME タイプを検出するかを説明しています。また、MIME タイプの登録方法、および Java Desktop System へのアプリケーションの追加方法についても説明しています。
- 第 6 章は、スクリーンセーバーを設定する方法について説明しています。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。
- 第 7 章は、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明しています。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。
- 第 8 章は、Java Desktop System のヘルプシステムについて説明しています。
- 第 9 章は、Java Desktop System のパフォーマンスを改善する方法について説明しています。
- 第 10 章は、Java Desktop System の特定の機能を無効にする方法について説明しています。
- 付録 A は、Java Desktop System がユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明しています。
- 用語集では、このマニュアルで使用される用語とその定義について説明します。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『Java Desktop System Release 3 Accessibility Guide』
- 『Java Desktop System Release 3 インストールガイド』
- 『Java Desktop System Release 3 ご使用にあたって』
- 『Java Desktop System Release 3 問題の解決方法』
- 『Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド』

サポートされる Solaris システム

Solaris オペレーティングシステム (Solaris OS) は、さまざまなアーキテクチャ、プロセッサファミリー、システムをサポートしています。表 P-1 は、Solaris OS でサポートされ、この製品リリースに対応するシステムについての情報の参照先を示しています。

表 P-1 サポートされる Solaris システム

アーキテクチャ	プロセッサファミリー	Solaris システム
SPARC	<ul style="list-style-type: none">■ SPARC64■ UltraSPARC	次のサイトで、Solaris の最新の Hardware Platform Guide を参照してください。 http://docs.sun.com
x86	<ul style="list-style-type: none">■ AMD64■ Pentium■ Xeon EM64T	次の場所にアクセスして、最新の Solaris x86 プラットフォームハードウェアの互換性リストを参照してください。 http://www.sun.com/bigadmin/hcl

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上的コンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

マウス使用規則

次の表に、Java Desktop System 用マニュアルでのマウス使用規則をまとめます。

アクション	定義
クリック	マウスを動かさずに、左マウスボタンを押して放す
クリック&ホールド	左マウスボタンを押したまま放さない
左クリック	クリックと同じ。左クリックは、右クリックと混乱する恐れがある場合に、操作を明確にするために使用する
中央クリック	マウスを動かさずに、中央マウスボタンを押して放す
右クリック	マウスを動かさずに、右マウスボタンを押して放す
ダブルクリック	マウスを動かさずに、すばやく 2 回押して放す
ドラッグ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグできる。デスクトップ上では、左マウスボタンおよび中央マウスボタンを使用してドラッグを実行できる
ドラッグ&ドロップ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグ&ドロップできる。オブジェクトを配置する場所でマウスボタンを放す

アクション	定義
Grab	移動する項目をポイントし、マウスボタンをクリック&ホールドする。たとえば、ウィンドウのタイトルバーをGrabし、そのウィンドウを別の場所にドラッグできる

第 1 章

GConf の使用方法

この章では、GConf を使用してユーザーの設定を管理する方法について説明します。

GConf の概要

GConf は、Java Desktop System でのユーザーの設定の管理を簡素化します。システム管理者は、GConf を使用して次のことが可能になります。

- すべてのユーザーの特定の設定に必須値を設定する。システム管理者はこの方法で、ユーザーが特定の設定を更新できるかどうかを制御できます
- すべてのユーザーの特定の設定にデフォルト値を設定する
- 設定の定義ファイルで指定されている設定の推奨値を使用する
- 各設定に関するマニュアルを読む

設定値がローカルに、またはネットワークを介して変更されると、GConf はアプリケーションに設定値の変更を通知します。このため、設定を変更すると、その設定を使用するすべてのアプリケーションがただちに更新されます。

GConf には、次のコンポーネントがあります。

- ユーザー設定のリポジトリ
- gconfd-2 デーモン
- gconftool-2 コマンドラインツール

GConf リポジトリ

GConf リポジトリ内の各設定は、キーと値のペアで構成されます。GConf 設定キーは、アプリケーション設定に対応するリポジトリ内の要素です。たとえば、`/apps/gnome-session/options/show_splash_screen` 設定キーは、セッション設定ツールの「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応します。Java Desktop System のユーザーインタフェースには、GConf リポジトリ内のすべての設定キーが含まれるわけではありません。たとえば、Panel 設定ツールには `/apps/panel/global/tooltips_enabled` キーに対応するオプションは含まれていません。

リポジトリは、単純な階層ファイルシステムのように構成されています。リポジトリには、次のものが含まれます。

- GConf リポジトリを使用するアプリケーションに対応するディレクトリ。たとえば、このファイルシステムには、`/apps/gnome-terminal` というディレクトリが含まれる
- 設定のカテゴリに対応するサブディレクトリ。たとえば、このファイルシステムには、`/apps/gnome-terminal/global` というディレクトリが含まれる
- ディレクトリ内の設定キーの一覧、およびそのキーに関する情報を含む特殊ファイル。たとえば、HTTP プロキシ設定に関連するキーについての情報を持つファイルは、ディレクトリ `/system/http_proxy` にある
- すべての設定キーを記述するファイルを含む `/schemas` ディレクトリ

通常、設定キーは、次の単純なデータ型を持ちます。

- 文字列
- 整数
- 文字列のリスト
- 整数のリスト

リポジトリ内の設定キーの形式は、リポジトリの読み取りに使用されるバックエンドモジュールに依存します。次は、リポジトリの読み取りに XML (Extensible Markup Language) が使用される場合の `/desktop/gnome/interface/font_name` 設定キーの例です。

```
<entry name="font_name" mtime="1038323555" muser="user123" type="string">
<stringvalue>Sans 10</stringvalue></entry>
```

注 - このマニュアルでは、設定キーを参照するときに、キーのパス名をそのキーの名前に追加しています。たとえば、`/desktop/gnome/interface` サブディレクトリ内の `font_name` 設定キーは、`/desktop/gnome/interface/font_name` と示されます。

GConf 構成ソース

GConf リポジトリは、「構成ソース」と呼ばれる一連の保存場所を記述した設定ファイルを含んでいます。構成ソースは、「GConf パスファイル」に記述されます。GConf パスファイルの場所は、`/etc/gconf/gconf-version-number/path` です。各ユーザーは、パスファイルを持っています。このパスファイルは、各構成ソースに対して次の情報を指定します。

- リポジトリの読み取りに使用するバックエンドモジュール
- リポジトリのアクセス権
- リポジトリの場所

GConf パスファイルには、`include` 命令も含まれています。デフォルトでは、GConf パスファイルの内容は次のようになります。

```
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory
include /etc/gconf/2/local-mandatory.path
apoc:readonly:mandatory@
include "${HOME}/.gconf.path"
xml:readwrite:${HOME}/.gconf
apoc:readonly:@
include /etc/gconf/2/local-defaults.path
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults
```

GConf が設定値を検索する場合、GConf は、パスファイル内で指定された順に構成ソースを読みます。次の表は、パスファイル内の構成ソースです。

構成ソース	説明
必須 (xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory)	この構成ソースのアクセス権は、読み取り専用で設定されます。ユーザーは、このソースの値を上書きすることができません。したがって、そのソースの設定は必須です
ユーザー	この構成ソースは、ユーザーのホームディレクトリ内の <code>.gconf</code> ディレクトリに格納されます。ユーザーが環境を設定すると、新しい設定情報がこの場所に追加されます ユーザー構成ソースは、GConf エディタで変更できます。
標準	この構成ソースには、デフォルトの設定が含まれています

パスファイル内の構成ソースの順序では、必須の設定がユーザーの設定よりも優先されます。また、デフォルト設定よりもユーザーの設定が優先されます。つまり、GConf は、次の優先順位で設定を適用します。

1. 必須の設定
2. ユーザー指定の設定
3. デフォルトの設定

システム管理者は、GConf パスファイル内の include 命令を使って、別の構成ソースを指定できます。

インクルードされる構成ソース	説明
/etc/gconf/2/local-mandatory.path	この構成ソースは、特定のシステムの必須設定を格納するために使用します。
\$(HOME)/.gconf.path	ユーザーは、構成ソースの場所をホームディレクトリ内の .gconf.path というファイルに指定します。
/etc/gconf/2/local-defaults.path	この構成ソースは、特定のシステムのデフォルトの設定値を格納するために使用しません。

GConf パスファイル内の apoc 設定を使用して、Sun Java Desktop System Configuration Manager のバックエンドモジュールを指定します。Sun Java Desktop System Configuration Manager については、<http://docs.sun.com> にある Sun Java Desktop System Configuration Manager に関するドキュメントを参照してください。

GConf スキーマ

「GConf スキーマ」は、「GConf スキーマキー」と「GConf スキーマオブジェクト」の総称です。次の表は、スキーマキー、スキーマオブジェクト、およびこれらの項目と設定キーとの関連性について説明しています。

項目	説明
設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素
スキーマキー	設定キーのスキーマオブジェクトを格納するキー
スキーマオブジェクト	次のような設定キー用の情報を含む構成ソース内の要素 <ul style="list-style-type: none"> ■ 設定キーを使用するアプリケーションの名前 ■ 設定キーに必要な値の型 (たとえば、int、bool など) ■ 設定キーのデフォルト値 ■ 設定キーについての簡単な記述

次の表は、設定キー、スキーマキー、およびスキーマオブジェクトの例を示しています。

項目	例
設定キー	/desktop/gnome/interface/font_name

項目	例
スキーマキー	<code>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</code>
スキーマオブジェクト	<pre> <schema> <applyto>/desktop/gnome/interface/font_name</applyto> <key>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</key> <owner>gnome</owner> <type>string</type> <default>Sans 10</default> <locale name="C"> <short>Default font</short> <long>Name of the default font used by gtk+.</long> </locale> </schema> </pre>

設定キーにスキーマキーを関連付けることができます。たとえば、`/desktop/gnome/interface/font_name` キーは次のスキーマキーを含んでいます。

```

<entry name="font_name" mtime="1034873859"
schema="/schemas/desktop/gnome/interface/font_name"/>

```

設定キーにスキーマキーを関連付けると、設定は、そのスキーマキーのスキーマオブジェクト内で指定されている推奨値を使用します。推奨値は、スキーマオブジェクトの `<default>` 要素に含まれています。デフォルトでは、デフォルト構成ソース内のすべての設定キーが、スキーマキーと関連付けられます。

通常、スキーマはデフォルト構成ソースに格納されます。

GConf スキーマ定義ファイル

スキーマは、「スキーマ定義ファイル」から生成されます。スキーマ定義ファイルは、特定のアプリケーションにおけるすべてのキーの特性を定義します。スキーマ定義ファイルには、`.schemas` 拡張子が付きます。

スキーマ定義ファイルは、`/etc/gconf/schemas` ディレクトリに含まれています。スキーマ定義ファイルを使用して、新しい構成ソースを作成できます。

いくつかのスキーマ定義ファイルは、Java Desktop System のユーザーインターフェイスの一部と緊密に対応しています。たとえば、`system_http_proxy.schemas` は、Internet 設定ツールに対応します。ほかのスキーマ定義ファイルは、Java Desktop System のユーザーインターフェイスにはない設定キーを含んでいることがあります。たとえば、`/apps/panel/global/tooltips_enabled` キーはユーザーインターフェイスにはありません。

Java Desktop System のユーザーインターフェイスのいくつかは、複数のスキーマ定義ファイルの設定キーを表す設定を含んでいます。たとえば、キーボードショートカット設定ツールは、panel-global-config.schemas および metacity.schemas ファイルのキーを表す設定を含んでいます。

GConf デーモン

GConf デーモンは、gconfd-2 です。GConf デーモンは、設定の値が変更されると、アプリケーションに通知します。たとえば、メニューとツールバー設定ツールでツールバーのアイコンのみを表示するように選択するとします。設定ツールでこのオプションを選択すると、開いているすべてのアプリケーションのツールバーがただちに更新されます。GConf デーモンは、ローカルでも、ネットワークを介してでも動作することができます。

GConf デーモンのインスタンスは、ユーザーごとに起動されます。ユーザーが複数のシステムにログインする場合、GConf デーモンのインスタンスはセッションごとに起動されます。この場合、GConf デーモンのインスタンスを1つだけ使用するよう Java Desktop System を設定することもできます。この方法については、[19 ページの「1つの GConf デーモンのインスタンスを使用するよう Java Desktop System を設定する」](#)を参照してください。

GConf デーモンでは、認証やデータのセキュリティなどの複雑な問題の処理はしません。GConf デーモンは、起動するときにGConf パスファイルを読み取ります。GConf デーモンは、アプリケーションと構成ソース間のすべてのアクセスを管理します。

アプリケーションが設定キーの値を要求すると、デーモンは次のようにして構成ソースを検索します。

1. パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーの値を検索します。値が見つかったら、その値を返します。
2. 値が見つからない場合は、パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーに対応するスキーマキーを検索します。
3. スキーマキーが見つかったら、スキーマキーの値を調べます。
4. スキーマキーの値がスキーマオブジェクトの場合、そのスキーマオブジェクトの <default> 要素内の推奨値を返します。

GConf デーモンは、設定キーの値をキャッシュに入れます。すべてのアプリケーションがこのキャッシュを使用するため、アプリケーションが構成ソースにアクセスするのは一度だけです。

GConf デーモンを終了するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --shutdown
```

1 つの GConf デーモンのインスタンスを使用するように Java Desktop System を設定する

Java Desktop System では、ユーザーが複数のシステムにログインする場合、デフォルトで GConf デーモンの複数のインスタンスが作成されます。この場合、GConf デーモンのインスタンスを 1 つだけ使用するように Java Desktop System を設定することもできます。そのユーザーは *Network File System (NFS)* 上のホームディレクトリが必要です。

ユーザーが複数のシステム上で GConf デーモンのインスタンスを 1 つ使用し、設定の値を変更すると、ユーザーがログインしているすべてのセッションに変更が適用されます。たとえば、1 つのセッションのメニューとツールバー設定ツールでツールバーのアイコンのみを表示するように選択した場合、ユーザーがログインしているすべてのセッションで、開いているすべてのアプリケーションのツールバーがただちに更新されます。

注 - すべてのセッションがユーザーのホームディレクトリにアクセス可能な場合のみ、ユーザーは GConf デーモンのインスタンスを 1 つだけ使用できます。

Java Desktop System では、*Common Object Request Broker Architecture (CORBA)* が使用されます。CORBA によって、アプリケーションオブジェクトは、作成に使用されたプログラミング言語や実行されているオペレーティングシステムにかかわらず、互いに通信することが可能になります。

CORBA 上で、*Object Request Broker (ORB)* がサーバーとクライアント間で通信を行います。Java Desktop System の ORB の 1 つが ORBit2 です。GConf は、ORBit2 の TCP プロトコルを使用して、GConf デーモンとユーザーがログインしているセッションの間で通信を行います。

ユーザーごとに GConf デーモンのインスタンスが 1 つ使用されるようにシステムを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーがログインするすべてのシステムで、`/etc/orbitrc` ファイルに次の行が含まれていることを確認します。

```
ORBIIOPv4=1
```

2. `GCONF_GLOBAL_LOCKS` 環境変数の値を 1 に設定します。この結果、GConf によって、ローカルシステムのディレクトリではなく、ユーザーのホームディレクトリにロックが作成されます。
3. GConf デーモンを再起動します。

各ユーザーに対して GConf デーモンのインスタンスが複数使用されるようにシステムを設定するには、`GCONF_GLOBAL_LOCKS` 環境変数の値を設定解除します。その後 GConf デーモンを再起動します。



注意 - ORBit2 の TCP プロトコルは、サーバーとクライアント間の通信が暗号化されていないため、完全に安全ではありません。

GConf コマンドラインツール

GConf は、コマンドラインツールの `gconftool-2` を含んでいます。 `gconftool-2` コマンドを使用して、次の作業を実行できます。

- キーの値を設定する
- キーの値を表示する
- アプリケーションをインストールするときに、スキーマ定義ファイルからスキーマをインストールする

たとえば、次のコマンドを使用して `/desktop/gnome` ディレクトリおよびサブディレクトリ内のすべてのキー値を表示することができます。

```
# gconftool-2 --recursive-list /desktop/gnome
```

表 1-1 は、 `gconftool-2` コマンドに使用できるオプションを示しています。

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション

オプション	機能
<code>--all-dirs</code>	指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリをリストする
<code>--all-entries</code>	指定したディレクトリ内のすべてのキー値を表示する
<code>--config-source= configuration-source</code>	<code>--direct</code> オプションと共に使用して、使用する構成ソースを指定する。このオプションで構成ソースを指定しない場合、パスファイル内のすべての構成ソースでコマンドが実行される
<code>--direct</code>	<code>--config-source</code> オプションと共に使用して、構成ソースに直接アクセスする。このオプションを使用する場合、GConf はサーバーを省略する。このオプションを使用する前に、GConf デーモンの <code>gconfd-2</code> が実行されていないことを確認する必要がある

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--dump</code>	<p>ユーザーが指定した GConf リポジトリディレクトリ内に、すべての設定キーを含む一覧を生成する。一覧には、すべてのキーの XML 記述が含まれる。一覧は、<code><gconfentryfile></code> 要素内に含まれている</p> <p>たとえば、このオプションからの出力をリダイレクトして、ユーザーのパネル設定に関係のあるキーをすべて含むファイルを生成できる。このファイルでは <code>--load</code> オプションが使用できる</p>
<code>--get</code>	<p>指定した設定キーの値を表示する。また、指定したスキーマキーのスキーマオブジェクト内の要素の値も表示する</p>
<code>--help</code>	<p><code>gconftool-2</code> コマンドに関するヘルプメッセージと、<code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する</p>
<code>--load=filename</code>	<p>構成ソースの現在のディレクトリ内にある設定キーの値を、指定したファイル内の値に設定できる。 <code><gconfentryfile></code> 要素にキーの XML 記述を含むファイルを指定すること</p>
<code>--long-desc=description</code>	<p><code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの説明を指定する</p>
<code>--makefile-install-rule</code>	<p>スキーマ定義ファイルをアプリケーションにインストールする</p>
<code>--owner=owner</code>	<p><code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの所有者を指定する</p>
<code>--recursive-list</code>	<p>指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリにあるすべての設定キーの値を表示する</p>
<code>--recursive-unset</code>	<p>ディレクトリ内のすべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、すべての設定キーの値をリセットする</p>
<code>--set</code>	<p>設定キーの値を設定し、その値をユーザー構成ソースに書き込む。<code>--type</code> オプションは <code>--set</code> オプションと共に使用して、設定する値のデータ型を指定する。たとえば、次のコマンドは、ユーザー構成ソースの <code>/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color</code> キーの値を設定する</p> <pre># gconftool-2 --set "/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --type string "#000000"</pre> <p><code>--direct</code> オプションと <code>--config-source</code> オプションを <code>--set</code> オプションと共に使用して、値を別の構成ソースに書き込むこともできる</p>

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--set-schema</code>	<p>スキーマキーの属性の値を設定し、その値をデフォルト構成ソースに書き込む</p> <p>次のオプションを <code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、更新する属性を指定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>--type</code> ■ <code>--short-desc</code> ■ <code>--long-desc</code> ■ <code>--owner</code> <p>次のコマンドは</p> <pre>/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color キーに対して、スキーマキーの短い説明を設定する</pre> <pre># gconftool-2 --set-schema "/schemas/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --short-desc "Default background color of terminal"</pre>
<code>--short-desc=description</code>	<p><code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの短い説明を指定する</p>
<code>--shutdown</code>	<p>GConf デーモンを終了する</p>
<code>--type=data-type</code>	<p>設定キーの値を設定する場合にデータ型を指定する。スキーマキーの属性値を設定する場合にもこのオプションを使用できる。次のような有効なデータ型がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>bool</code> ■ <code>float</code> ■ <code>int</code> ■ <code>list</code> ■ <code>pair</code> ■ <code>string</code>
<code>--unset</code>	<p>ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、設定キーの値をリセットする</p>
<code>--usage</code>	<p><code>gconftool-2</code> コマンドに関する簡単なヘルプメッセージと、<code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する</p>

設定値の設定

設定キーに対して、必須値またはデフォルト値を設定できます。ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、GConf デモンがどのユーザーに対しても実行されていないことを確認する必要があります。また、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してから、ユーザーの設定値を変更してください。

設定キーの必須値またはデフォルト値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを次のように使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source configuration-source --type
data-type --set preference-key value
```

たとえば、`wwwproxy.xyz.com` を必須の HTTP プロキシホストとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host wwwproxy.xyz.com
```

通常ユーザーは、この設定値を上書きできません。

`gconftool-2` コマンドを使用して、デフォルト値を設定することもできます。たとえば、ワークスペースのデフォルト数を 5 に設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces 5
```

ユーザーは、この設定値を変更できます。



注意 - ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してください。

一般的な環境の設定

この節では、必須値またはデフォルト値を一般的な設定に割り当てる方法を説明します。

HTTP プロキシの設定

HTTP プロキシを設定するには、`/system/http_proxy/` の設定キーの値を変更します。たとえば、HTTP プロキシホストに必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host proxy-name
```

HTTP プロキシホストにデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/system/http_proxy/host proxy-name
```

ほかの HTTP プロキシ関連の環境を設定することもできます。ほかの HTTP プロキシ設定に関する情報については、`system_http_proxy.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

ワークスペース数の設定

ワークスペースの必須の数を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ワークスペースのデフォルトの数を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ほかのウィンドウマネージャの環境を設定することもできます。ほかのウィンドウマネージャの設定に関する情報については、`metacity.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

キーボードアクセシビリティの設定

キーボードアクセシビリティを設定するには、`/desktop/gnome/accessibility/keyboard` の設定キーの値を変更します。たとえば、キーボードアクセシビリティ機能が有効になるように必須値を設定したい場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable true
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable false
```

ほかのキーボードアクセシビリティ環境を設定することもできます。ほかのキーボードアクセシビリティ設定に関する情報については、`desktop_gnome_accessibility_keyboard.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

キーボードショートカットの設定

キーボードショートカット設定を行うには、`/apps/metacity/global_keybindings/panel_run_dialog` にある設定キーの値を変更します。たとえば、「アプリケーションの実行」ダイアログを開くときに、ユーザーが `Alt + F3` キーボードショートカットのみを使用するように設定したい場合があります。この必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/apps/metacity/global_keybindings/panel_run_dialog '<Alt>F3'
```

ほかのキーボードショートカット環境を設定することもできます。ほかのキーボードショートカットの設定に関する情報については、`metacity.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

パネルとパネルオブジェクトの設定

`panel-default-setup.entries` ファイルは、Java Desktop System 内のパネルについて、次の内容を指定します。

- パネルの数
- パネルのタイプ
- パネルのプロパティ
- パネルの内容

パネルおよびパネルオブジェクトを個別に設定するのは、複雑な作業になります。パネルやパネルオブジェクトを個別に設定するには、まず `panel-default-setup.entries` ファイルの構造を理解する必要があります。`panel-default-setup.entries` ファイルについては、26 ページの「パネル構成ファイルの構造」を参照してください。

パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定するには、構成ソース内の多数の設定値を設定する必要があります。パネル設定の値を設定する一番簡単な方法は、`--dump` および `--load` オプションを指定して、`gconftool-2` コマンドを使用することです。パネルおよびパネルオブジェクトの設定方法については、28 ページの「パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定」を参照してください。

パネル構成ファイルの構造

panel-default-setup.entries ファイルには、パネルおよびパネルの内容を指定する部分があります。また panel-default-setup.entries ファイルは、スキーマキーの値を指定します。panel-default-setup.entries ファイルは、/etc/gconf/schemas ディレクトリ内にあります。

panel-default-setup.entries ファイルの構造は、次のとおりです。

1. ファイル内のすべてのキーのベースパスを指定する entrylist 要素。たとえば、次の要素 (panel-default-setup.entries の抜粋) は、キーのベースパスとして /apps/panel/default_setup を指定します。

```
<entrylist base="/apps/panel/default_setup">
```

たとえば、キー general/toplevel_id_list が panel-default-setup.entries 内で参照されている場合、キーのフルパスは /apps/panel/default_setup/general/toplevel_id_list です。

2. デスクトップ内のパネル、パネルアプリケーション、およびその他のパネルオブジェクトの一般的な構造を指定するキー。次のキーが、デスクトップ内に表示されるパネル、パネルオブジェクト、およびパネルアプリケーションの数を指定します。

- general/toplevel_id_list
- general/object_id_list
- general/applet_id_list

これらのキーは、各パネル、パネルオブジェクト、およびパネルアプリケーションに識別子も割り当てます。たとえば、次の panel-default-setup.entries のサンプルでは、デスクトップに表示されるパネルは1つです。

```
<entry>
  <key>general/toplevel_id_list</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/general/toplevel_id_list</schema_key>
  <value>
    <list type="string">
      <value>
        <string>bottom_panel</string>
      </value>
    </list>
  </value>
</entry>
```

panel-default-setup.entries ファイルでは、識別子 bottom_panel が画面の最下部のパネルを識別します。

3. パネルのプロパティを指定するキー。パネル設定キーは、次のように設定されています。

```
toplevels/panel-name/panel-property-key
```

たとえば、`toplevels/bottom_panel/size` のキーはボトムパネルのサイズを指定します。

4. パネルオブジェクト、パネルオブジェクトプロパティ、およびオブジェクトが存在するパネルを指定するキー。たとえば、次の `panel-default-setup.entries` のサンプルでは、メインメニュー オブジェクトがボトムパネルの左側に表示されます。

```
<entry>
  <key>objects/main_menu/object_type</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/object_type</schema_key>
  <value>
    <string>menu-object</string>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key>objects/main_menu/toplevel_id</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/toplevel_id</schema_key>
  <value>
    <string>bottom_panel</string>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key>objects/main_menu/position</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/position</schema_key>
  <value>
    <int>0</int>
  </value>
</entry>
```

5. パネルアプリケーション、パネルアプリケーション設定、およびパネルアプリケーションが存在するパネルを指定するキー。たとえば、次の `panel-default-setup.entries` のサンプルでは、Window List パネルアプリケーションがボトムパネルに表示されます。

```
<entry>
  <key>applets/window_list/object_type</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/object_type</schema_key>
  <value>
    <string>bonobo-applet</string>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key>applets/window_list/toplevel_id</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/toplevel_id</schema_key>
  <value>
    <string>bottom_panel</string>
  </value>
</entry>
<entry>
```

```

<key>applets/window_list/position</key>
<schema_key>/schemas/apps/panel/objects/position</schema_key>
<value>
  <int>3</int>
</value>
</entry>
.
.
.
<entry>
<key>applets/window_list/bonobo_iid</key>
<schema_key>/schemas/apps/panel/objects/bonobo_iid_type</schema_key>
<value>
  <string>OAFIID:GNOME_WindowListApplet</string>
</value>
</entry>

```

OAFIID は、パネルアプリケーションの一意的識別子です。特定のパネルアプリケーションの OAFIID を検索するには、`/usr/lib/bonobo/servers` ディレクトリ内にあるそのパネルアプリケーションの `.server` ファイルを参照します。たとえば、次の `GNOME_Wncklet_Factory.server` の抜粋では、Window List パネルアプリケーションの OAFIID が示されます。

```

<oaf_server iid="OAFIID:GNOME_WindowListApplet"
type="factory" location="OAFIID:GNOME_Wncklet_Factory">

```

パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定

パネルやパネル内のオブジェクトの設定を行うには、次の手順を実行します。

1. テストユーザーアカウントでセッションにログインします。
2. 必要に応じてパネルを設定します。
3. `--dump` オプションを指定して `gconftool-2` コマンドラインツールを使用し、使用しているパネル設定の XML 記述を含むファイルを生成します。`--dump` オプションは、ユーザーが指定した GConf リポジトリディレクトリ内にあるすべての設定キーを含む一覧を生成します。

たとえば、次のコマンドはデフォルトパネル設定の XML 記述を `my-panel-setup.entries` というファイルに作成します。

```

# gconftool-2 --dump /apps/panel/profiles/default >
my-panel-setup.entries

```

4. `my-panel-setup.entries` ファイルをテキストエディタで開き、必要に応じて修正します。

たとえば、デスクトップエントリファイルの場所を変更します。次に、`--dump` オプションで生成されたファイルの抜粋を示します。

```
<entry>
  <key>objects/object_16/launcher_location</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/launcher_location</schema_key>
  <value>
    <string>hadjaha-00adce02f7.desktop</string>
  </value>
</entry>
```

上のサンプルで、hadjaha-00adce02f7.desktop への参照を、広く使用可能な別のデスクトップエントリファイルに変更することも考えられます。

--dump オプションでパネル設定を生成すると、パネルオブジェクトの位置は絶対的な位置になります。パネルオブジェクトの位置を絶対的な位置から相対的な位置に変更したい場合もあります。パネルの一番左端のオブジェクトの position 値は 0 です。その次のオブジェクトの position 値は 1 という具合になっています。オブジェクトをパネルの右側と相対する位置に置くには、right_stick キーを true に設定します。

5. --load オプションを指定して gconftool-2 コマンドラインツールを使用し、デフォルトの構成ソースの値を my-panel-setup.entries ファイル内の値に設定します。たとえば、次のコマンドは、デフォルトの構成ソースのキー値を my-panel-setup.entries 内の対応するキーの値に設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --load
my-panel-setup.entries
```

6. テストユーザーアカウントからログアウトします。

ロック&ファイルの設定

この節では、ロック&ファイルの設定に必須値またはデフォルト値を割り当てる方法を説明します。

フォントの設定

フォントを設定するには、2つの設定キーの値を変更します。次の表は、変更するキーと、そのキーに対応するユーザーインターフェイス部分を示しています。

GConf の場所	ユーザーインターフェイスコンポーネント
/desktop/gnome/interface/font_name	フォント設定ツールの「アプリケーション用フォント」オプション
/apps/nautilus/preferences/desktop_font	フォント設定ツールの「デスクトップ用フォント」オプション

たとえば、Sans 12 を必須アプリケーション用フォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/interface/font_name "Sans 12"
```

palatino 12 をデフォルトのデスクトップオブジェクトフォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/apps/nautilus/preferences/desktop_font "palatino 12"
```

背景の設定

デスクトップ背景の設定を行うには、/desktop/gnome/background にある設定キーの値を変更します。たとえば、背景に必須イメージを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

ほかの背景を設定することもできます。ほかの背景設定に関する情報については、desktop_gnome_background.schemas スキーマ定義ファイルを参照してください。

スプラッシュイメージの設定

スプラッシュイメージを設定するには、`/apps/gnome-session/options/` の設定キーの値を変更します。たとえば、スプラッシュイメージを表示しないように設定するには、必須値を次のように設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

ほかのスプラッシュイメージを設定することもできます。ほかのスプラッシュイメージ設定に関する情報については、`gnome-session.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

デフォルト設定値の復元

ユーザーのデフォルト設定値を復元するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source user-configuration-source
--recursive-unset
```

ユーザーのホームディレクトリ内にある `.gconf` ディレクトリ構成ファイルの `user-configuration-source` をデフォルト値にします。次に例を示します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source xml:readwrite:$(HOME)
/.gconf --recursive-unset
```

このコマンドは、すべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含むすべての設定キーの値をリセットします。

第 2 章

メニューのカスタマイズ

この章では、Java Desktop System でどのようにメニューが実装されるか、また、管理者はどのようにメニューをカスタマイズできるかを説明します。

メニューの概要

Java Desktop System のメニューの実装方法により、次のことが可能です。

- 簡単にメニュー階層をカスタマイズできます。メニュー階層は、ファイルシステムの階層構造に基づいていません。メニュー階層は、少数のファイルを編集するだけでカスタマイズできます。アプリケーションを変更したり、ファイルを移動する必要はありません。
- 簡単にアプリケーションをインストールできます。アプリケーションをインストールするときに、メニュー階層に関する情報をアプリケーションに提供する必要はありません。
- ユーザーがメニューを変更できないように設定できます。

Java Desktop System 上のメニューでは、次のコンポーネントを使用します。

- ファイル抽象レイヤー
- vfolder
- デスクトップエントリファイル
- ディレクトリエントリファイル

ファイル抽象レイヤー

gnome-vfs ファイル抽象レイヤーは、アプリケーションがファイルと相互に作用するための単純かつ一般化された方法を提供します。また、ファイル抽象レイヤーは、特定のメニュー構成ファイルに対応付ける URI (Uniform Resource Identifier) ロケーションを提供します。

すべてのユーザー用にメニューまたはメニュー項目を追加するには、そのメニューまたはメニュー項目を URI ロケーションの 1 つに追加する必要があります。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

表 2-1 システム管理者用のメニューと URI ロケーション

メニュー	URI ロケーション
すべてのユーザーの「アプリケーション」メニュー	applications-all-users:///
すべてのユーザーの「設定」メニュー	preferences-all-users:///

メニューまたはメニュー項目をユーザー自身のシステムにだけ追加する場合は、それらのメニューまたはメニュー項目をほかの URI ロケーションに追加する必要があります。ユーザーが項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-2 に示しています。

表 2-2 ユーザー用のメニューと URI ロケーション

メニュー	URI ロケーション
「アプリケーション」メニュー	applications:///
「設定」メニュー	preferences:///

ユーザーによるメニューのカスタマイズ方法については、『Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド』を参照してください。

vfolder とメニュー

一般的に、「vfolder」は、システム上の物理的な場所 (1 箇所または複数) に存在する項目の仮想表現になります。たとえば、vfolder が、いくつかのディレクトリの内容を表す場合があります。また vfolder は、1 つまたは複数の物理的な場所の抽象概念になります。Java Desktop System のメニューの場合、vfolder は、物理的に複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になります。

vfolder 情報ファイルは、vfolder を説明する XML ファイルです。vfolder 情報ファイルは、メニューの構造を指定します。また、メニューの名前と、メニューに表示されるアプリケーションの順序も指定します。vfolder 情報ファイルには、.vfolder-info ファイル拡張子が付きます。

次に vfolder 情報ファイルのサンプルを示します。

```
<VFolderInfo>
.
.
.
<Folder>
  <Name>Applications</Name>
  <Desktop>Applications.directory</Desktop>
  <Folder>
    <Name>Accessories</Name>
    <Desktop>Accessories.directory</Desktop>
    <Query>
      <And>
        <Keyword>Application</Keyword>
        <Keyword>Utility</Keyword>
      </And>
    </Query>
    <DontShowIfEmpty/>
  </Folder>
.
.
.
</Folder>
</VFolderInfo>
```

表 2-3 は、vfolder 情報ファイル内の要素を示しています。

表 2-3 vfolder 情報ファイルの要素

要素	説明
<Folder>	メニューの名前、内容、構造を定義する要素が含まれる
<Name>	メニューの名前を指定する。
<Desktop>	メニューの名前、コメント、アイコンを指定するディレクトリエントリファイルの名前

表 2-3 vfolder 情報ファイルの要素 (続き)

要素	説明
<Query>	<p>デスクトップエントリファイルに対するクエリー。クエリー要件と一致するデスクトップエントリファイルと、メニュー項目がメニュー上に表示される</p> <p>上記抜粋内のクエリーでは、Categories キー内にキーワード Application と Utility を含むデスクトップエントリファイルが検索される。一致するデスクトップエントリファイルが「アプリケーション」メニューに表示される</p> <p>この要素は任意</p>
<DontShowIfEmpty/>	<p>この要素がある場合は、項目を何も含まないメニューは表示されない</p> <p>この要素は任意</p>

デスクトップエントリファイル

「デスクトップエントリファイル」は、メニュー内の項目に関する情報を提供するデータファイルです。デスクトップエントリファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定します。また、デスクトップエントリファイルには、メニュー階層内での項目の位置を決定するキーワードが含まれています。デスクトップエントリファイルには、.desktop ファイル拡張子が付きます。

以下は、デスクトップエントリファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Calculator
Comment=Perform calculations
Exec=gcalctool
Icon=gcalctool.png
Terminal=false
Type=Application
Categories=GNOME;Application;Utility;
```

表 2-4 は、デスクトップエントリファイルで最も重要なキーを説明しています。

表 2-4 デスクトップエントリキー

デスクトップエントリキー	説明
Encoding	デスクトップエントリファイルのエンコーディングを指定する

表 2-4 デスクトップエントリキー (続き)

デスクトップエントリキー	説明
Name	項目の名前を指定する。この名前は、メニュー上の項目として表示される
Comment	項目の短い説明を指定する。コメントは、メニュー上のメニュー項目を指したときにツールチップとして表示される
Exec	メニューから項目を選択したときに実行されるコマンドを指定する
Icon	項目を表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Terminal	Exec キーで指定したコマンドを端末で実行するかどうかを指定する。値が true の場合は、コマンドが端末で実行される コマンドを実行するウィンドウを作成しない場合は、このキーの値を true にする必要がある
Type	項目のタイプを指定する。次のいずれかを指定する <ul style="list-style-type: none"> ■ Application: アプリケーションを起動する項目の場合はこのオプションを入力 ■ Link: ファイル、フォルダ、または URI にリンクする項目の場合はこのオプションを入力
Categories	項目を説明するキーワードを指定する。キーワードはセミコロン (;) で区切る。標準のカテゴリキーワードのリストについては、以下の URL のデスクトップメニュー仕様を参照 http://www.freedesktop.org vfolder 情報ファイルは、メニューに入力するキーワードを対応付ける

デスクトップエントリファイルのキーについては、次の URL のデスクトップエントリ仕様を参照してください。

<http://www.freedesktop.org>

注 - パネルランチャーやデスクトップオブジェクトも、デスクトップエントリファイルを使用します。ランチャーやデスクトップオブジェクト用のデスクトップエントリファイルは、メニュー項目用のデスクトップエントリファイルと同じ情報を提供します。たとえば、デスクトップエントリファイルは、ユーザーがランチャーまたはオブジェクトを選択したときに実行されるコマンドを提供します。

ディレクトリエントリファイル

「ディレクトリエントリファイル」は、メニューに関する情報を提供するデータファイルです。「ディレクトリエントリファイル」は、名前、ツールチップ、アイコンなどのメニューの詳細を指定します。ディレクトリエントリファイルには、`.directory` ファイル拡張子が付きます。

以下は、ディレクトリエントリファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Name=Accessories
Comment=Accessories menu
Icon=gnome-util.png
Type=Directory
```

表 2-5 は、ディレクトリエントリファイルの最も重要なキーを説明しています。

表 2-5 ディレクトリエントリキー

ディレクトリエントリキー	説明
Name	メニューの名前を指定する。この名前は、メニューに表示される
Comment	メニューの短い説明を指定する。コメントは、メニューを指したときにツールチップとして表示される
Icon	メニューを表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Type	メニューのタイプを指定する。このキーの値は常に <code>Directory</code>

メニューの編集

以下の Java Desktop System コンポーネントを使用してメニューを編集できます。

- Nautilus ファイルマネージャ
- パネル上のメニュー

ファイルマネージャを使用してすべてのユーザーにメニューまたはメニュー項目を追加する場合は、メニューまたはメニュー項目を URI ロケーションに追加します。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

パネルを使用して、すべてのユーザーのメニューをカスタマイズする場合は、メニュー項目ポップアップメニューを使用します。詳細は、『*Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド*』を参照してください。

メニューのカスタマイズに、メニュー構成ファイルおよびメニューデータファイルを使用することもできます。

メニューの追加

次の方法を使用して、メニューをすべてのユーザーに追加できます。

- ファイルマネージャを使用する
- メニュー構成ファイルおよびメニューデータファイルを変更する

ファイルマネージャによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、メニューを追加する場所にアクセスします。たとえば、「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、「場所」フィールドに `applications-all-users:///` と入力して、リターンキーを押します。
2. 「ファイル」→「新規フォルダ」を選択します。未タイトルのフォルダが表示区画に追加されます。フォルダの名前が選択されています。

注 - Solaris プラットフォームでは、フォルダの名前を入力する前に、ファイルマネージャウィンドウの表示を更新する必要があります。

3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。手順 1 でアクセスした場所用の `vfolder` 情報ファイルは、新しいメニューの詳細を反映して自動的に更新されます。フォルダの名前は、メニューの名前として表示されます。

次回ユーザーがログインすると、指定した場所にメニューが表示されます。

メニューファイルによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にディレクトリエントリファイルを作成します。ディレクトリエントリファイルは、`/usr/share/gnome/vfolders` ディレクトリに作成します。ディレクトリエントリファイルについては、38 ページの「ディレクトリエントリファイル」を参照してください。
2. メニューを追加する場所用の `vfolder` 情報ファイルの場所を確認します。「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、ファイル `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders/applications-all-users.vfolder-info` の場所を確認します。

3. vfolder 情報ファイルに、新しいメニュー用の <Folder> 要素を追加します。
vfolder 情報ファイルについては、34 ページの「vfolder とメニュー」を参照してください。

次回ユーザーがログインすると、指定した場所にメニューが表示されます。

メニューへの項目の追加

すべてのユーザーのメニューに項目を追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にデスクトップエントリファイルを作成します。デスクトップエントリファイルについては、36 ページの「デスクトップエントリファイル」を参照してください。
2. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。
3. 1つのウィンドウで、メニュー項目を追加する場所にアクセスします。たとえば、「設定」メニューにメニュー項目を追加する場合は、「場所」フィールドに `preferences-all-users:///` と入力し、リターンキーを押します。
4. 別のウィンドウで、そのメニュー項目用に作成したデスクトップエントリファイルを選択します。メニュー項目を追加する場所にデスクトップエントリファイルをドラッグします。

あるいは、デスクトップエントリファイルをコピーして、メニュー項目を追加する場所にそのファイルを貼り付けます。

次回ユーザーがログインすると、指定した場所にメニュー項目が表示されます。

メニューの設定を編集する

すべてのユーザーのメニューの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから編集するメニューを開きます。メニュー上の任意の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニューの設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログの要素については、『*Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド*』を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニュー項目を編集する

メニュー項目を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから、編集する項目を含むメニューを開きます。編集する項目を右クリックします。
2. 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニュー項目の設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログの要素については、『*Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド*』を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニューから項目を削除する

次の手順を実行します。

1. パネルから、削除する項目を含むメニューを開きます。
2. 削除する項目を右クリックし、「ランチャーをメニューから削除」を選択します。

次回ユーザーがログインすると、そのメニュー項目はメニューに表示されません。

ユーザーが変更できないメニューの設定

以下の条件が当てはまる場合、ユーザーはメニューを変更できません。

- メニューに対応する vfolder 情報ファイルが `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに存在する
- vfolder 情報ファイルの名前が、メニューに対応する URI ロケーションの名前と同じである

ユーザーが変更できないようにメニューを設定するには、次の手順を実行します。

1. `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに、設定するメニュー用の vfolder 情報ファイルを作成します。
2. vfolder 情報ファイルの名前に、設定するメニューに対応する URI ロケーションの名前を指定します。たとえば、「アプリケーション」メニューを設定する場合、`/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに `applications.vfolder-info` という名前で vfolder 情報ファイルを作成します。

第 3 章

テーマのインストール

この章では、テーマ、デスクトップで利用可能なテーマ設定、テーマ設定のオプションのインストール方法、およびカスタムオプションの作成方法について説明します。

テーマの概要

「テーマ」は、デスクトップの外観を指定する統合的な設定グループです。テーマを選ぶことにより、デスクトップの外観を変更できます。

テーマには、以下のようにデスクトップの個別の部分を制御できる設定が含まれています。

コントロール	テーマのコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、およびパネルアプリケーションの外観を決定します。また、ウィンドウ、パネル、およびパネルアプリケーション上に現れる GNOME 対応インターフェイス (メニュー、アイコン、ボタンなど) の外観も決定します。利用可能なコントロール設定オプションの中には、特別なアクセシビリティ要件を満たすように設計されているものもあります。
	コントロール設定のオプションは、テーマ設定ツールを起動後、「テーマの詳細」ボタンをクリックし、設定ツールの「コントロール」タブセクションで選択します。
ウィンドウフレーム	テーマのウィンドウフレーム設定は、ウィンドウのフレームの外観だけを指定します。
	ウィンドウフレーム設定のオプションは、テーマ設定ツールを起動後、「テーマの詳細」ボタンをクリックし、設定ツールの「ウィンドウボーダー」タブセクションで選択します。

アイコン テーマのアイコン設定は、パネルとデスクトップ背景にあるアイコンの外観を指定します。

アイコン設定のオプションは、テーマ設定ツールを起動後、「テーマの詳細」ボタンをクリックし、設定ツールの「アイコン」タブセクションで選択します。

テーマのインデックスファイル

各テーマには、そのテーマの特徴を決めるインデックスファイルがあります。インデックスファイルの名前は、`/usr/share/themes/theme-name/index.theme` となります。

以下に、テーマのインデックスファイルのサンプルを示します。

```
[Desktop Entry]
Type=X-GNOME-Metatheme
Name=High Contrast Large
Name[es]=Alto contraste grande
Comment=Large black-on-white text and icons
Comment[es]=Textos e iconos grandes en negro sobre blanco
Encoding=UTF-8
```

```
[X-GNOME-Metatheme]
GtkTheme=HighContrastLargePrint
IconTheme=HighContrast
MetacityTheme=Atlanta
ApplicationFont=sans 18
```

以下の表に、テーマのインデックスファイルのキーを示します。

表 3-1 テーマのインデックスファイルのキー

インデックスファイルのキー	説明
Type	テーマが、コントロール、ウィンドウフレーム、アイコンなどの複数のテーマオプションの外観を決定することを指定する
Name	テーマの名前。テーマ設定ツールで表示されるテーマの名前
Comment	テーマの簡単な説明。テーマ設定ツールで、テーマの名前の下に表示されるテキスト

表 3-1 テーマのインデックスファイルのキー (続き)

インデックスファイルのキー	説明
GtkTheme	テーマ設定ツールの「テーマの詳細」のコントロール設定に対応。ウィンドウ、パネル、およびパネルアプリケーションに適用されるコントロール設定オプションを指定する
IconTheme	テーマ設定ツールの「テーマの詳細」のアイコン設定に対応。パネルとデスクトップ背景に適用されるアイコン設定オプションを指定する
MetacityTheme	テーマ設定ツールの「テーマの詳細」のウィンドウフレーム設定に対応。ウィンドウに適用されるウィンドウフレーム設定のオプションを指定する
ApplicationFont	フォント設定ツールのアプリケーションフォント設定に対応

新しいコントロールオプションをインストールする

コントロール設定に新しいオプションを追加できます。新しいオプションを追加するときは、テーマ設定ツールの「テーマの詳細」ダイアログでオプションを選択します。コントロールオプションは、`/usr/share/themes` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのコントロールオプションの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

オプションファイル `/usr/share/themes/option-name/gtk-2.0/gtkrc`

イメージファイル `/usr/share/themes/option-name/pixmap/*.*`

一般的にコントロール設定の新しいオプションは、`.tar.gz` ファイルの形で提供されます。新しいコントロールオプションをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/themes` ディレクトリに展開します。

ユーザーは、コントロール設定に対してユーザー定義のオプションもインストールできます。コントロール設定のオプションをインストールすると、そのオプションは `$HOME/.themes` ディレクトリに保存されます。

一般的にアイコン設定の新しいオプションは、.tar.gz ファイルの形で提供されません。新しいアイコンオプションをインストールするには、.tar.gz ファイルを解凍して、.tar ファイルを /usr/share/icons ディレクトリに展開します。

ユーザーは、アイコン設定に対してユーザー定義のオプションもインストールできます。アイコン設定のオプションをインストールすると、そのオプションは \$HOME/.icons/*option-name* ディレクトリに保存されます。

テーマ用の新しいアイコンのインストール

Java Desktop System には、次のタイプのアイコンが用意されています。

- GTK+ アプリケーションによって内部で使用されるアイコン、または GTK+ ストックアイコン。ユーザーは、「テーマの詳細」ダイアログの「コントロール」タブセクションで、デスクトップ用のこれらの一連のアイコンを指定することができます。
- 「メインメニュー」およびファイルマネージャのアプリケーションを表すために使用されるアイコン。ユーザーは、「テーマの詳細」ダイアログの「コントロール」タブセクションで、デスクトップ用のこれらの一連のアイコンを指定することができます。

Java Desktop System には、特別な視覚的要件を持つユーザー用に設計されたいくつかのテーマがあります。たとえば、視力の弱いユーザー用に設計されたテーマが用意されています。アイコンを各テーマで正しく表示するためには、アイコンのバージョンが複数必要な場合もあります。アイコンは、PNG (Portable Network Graphic) 形式など、いくつかの形式で作成できます。Java Desktop System 用のアイコンの推奨サイズは、48 x 48 ピクセルです。このサイズであれば、ほとんどのテーマでそのアイコンの大きさを変更できます。

新しいアイコンをインストールするときは、以下に示すアイコンを 48 x 48 ピクセルバージョンで作成します。

- 通常のアイコン
- 低コントラストのアイコン
- 高コントラストのアイコン
- 反転の高コントラストのアイコン

アイコンは、[45 ページの「新しいコントロールオプションをインストールする」](#)で説明されているイメージファイルの場所にインストールします。

たとえば、GTK+ アイコンを HighContrastLargePrint テーマに追加する場合には、次の手順を実行します。

- アイコンを `/usr/share/themes/HighContrastLargePrint/pixmaps` ディレクトリに追加します。
- アイコンを GTK ストックアイコン識別子に関連付けるように `/usr/share/themes/HighContrastLargePrint/gtk-2.0/gtkrc` ファイルを修正します。

新しいアプリケーションの「メインメニュー」アイコンを `HighContrastLargePrint` theme テーマに追加するには、
`/usr/share/icons/HighContrastLargePrint/48x48/apps` ディレクトリにアイコンをインストールします。

アプリケーションランチャー用およびパネル用のアイコンの作成方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.freedesktop.org/Standards/icon-theme-spec>

カスタムコントロールオプションを作成する

コントロール設定のオプションが、ユーザーのニーズに合わない場合は、カスタムコントロールオプションを作成できます。カスタムコントロールオプションを作成するには、次の手順を実行します。

1. オプションのディレクトリ構造を `/usr/share/themes` ディレクトリ内に作成します。ほかのオプションと同じディレクトリ構造を使用します。たとえば、`SmallPrint` というオプションを作成する場合は、次のディレクトリを作成します。
 - `/usr/share/themes/SmallPrint`
 - `/usr/share/themes/SmallPrint/gtk-2.0`
2. ユーザー要件をほぼ満たす `gtkrc` ファイルを見つけます。そのファイルを新しいオプションの `gtk-2.0` ディレクトリにコピーします。
3. テキストエディタを使用して、`gtkrc` ファイルを開き、必要に応じてインタフェース要素の属性を変更します。
4. 新しいオプションにイメージが含まれる場合は、そのイメージを新しいオプションの `pixmaps` ディレクトリにインストールします。新しいオプションが別のオプションのイメージを使用する場合は、新しいオプション用にイメージのコピーを作成する必要はありません。ただし、`gtkrc` ファイルの `pixmap_path` エントリに登録されているイメージへの参照が正しいことを確認する必要があります。

ユーザーは、コントロール設定向けの新しいオプションを選択できるようになりました。

gtkrc ファイルについては、次の URL を参照してください。

<http://developer.gnome.org/doc/API/2.0/gtk/gtk-Resource-Files.html>

第 4 章

フォントの設定

この章では、Java Desktop System でのフォントの設定方法について説明します。

フォント設定の概要

Java Desktop System は fontconfig フォント設定およびカスタマイズライブラリを使用します。fontconfig ライブラリでは、PostScript Type 1 フォントおよび TrueType フォントを含め、すべての種類のフォントを使用できます。

fontconfig ライブラリには、Java Desktop System で使用できるすべてのフォントのリストがあります。このリストを作成するために、fontconfig は /etc/fonts/fonts.conf ファイルに一覧表示されるディレクトリを検索します。システムで使用できるすべてのフォントを表示するには、システム上のファイルマネージャ内で fonts:/// にアクセスします。

fontconfig ライブラリについては、次の URL を参照してください。

<http://freedesktop.org/software/fontconfig>

フォント置換

fontconfig ライブラリは、フォント全体または個別の文字が存在しない場合にフォントを置換します。存在しないフォントを表示する必要がある場合、fontconfig は別の類似フォントの表示を試みます。たとえば、Web ページが Verdana フォントの表示を要求していて、そのフォントがシステムにインストールされていない場合、fontconfig は、Helvetica などの類似フォントを表示します。類似フォントのリストは、/etc/fonts/fonts.conf ファイルに定義されています。

選択したフォントには存在しない文字を表示する必要がある場合、fontconfig は別の類似フォントの文字の表示を試みます。たとえば、テキストエディタアプリケーションのフォントとして Bitstream Vera Sans を選択したとします。Bitstream Vera フォントファミリにはキリル文字が含まれません。キリル文字が含まれた文書を開くと、テキストエディタはキリル文字を含む類似フォントを使用して文字を表示します。

fontconfig ライブラリは、serif、sans-serif、monospace など、フォントの別名も定義します。フォントの別名の 1 つを選択すると、`/etc/fonts/fonts.conf` ファイル内でその別名に定義されている最初のフォントが使用されます。

すべてのユーザーにフォントを追加する

すべてのユーザーにフォントを追加するには、次の手順を実行します。

1. `/etc/fonts/fonts.conf` ファイル内に記述されたディレクトリの 1 つに、フォントファイルをコピーします。通常、追加フォントは `/usr/share/fonts/` ディレクトリに格納されています。
2. fontconfig ライブラリは、フォントのリストを自動的に更新します。フォントのリストが更新されない場合は、次のコマンドを実行します。

```
# fc-cache
```

また、ディレクトリを特定して更新するには、次のコマンドを実行します。

```
# fc-cache directory-name
```

また、`/etc/fonts/fonts.conf` にあるディレクトリのみを更新し、更新済みディレクトリのリストを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
# fc-cache --system-only -v
```

個別ユーザーにフォントを追加する

個別のユーザーにフォントを追加するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーの `$HOME/.fonts` ディレクトリに、フォントファイルをコピーします。ファイルマネージャ内の `fonts:///` にフォントファイルをドラッグすると、フォントファイルが `$HOME/.fonts` ディレクトリにコピーされます。
2. fontconfig ライブラリは、フォントのリストを自動的に更新します。フォントのリストが更新されない場合は、次のコマンドを実行します。

```
# fc-cache directory-name
```

fc-cache コマンドで使用するほかのオプションについては、52 ページの「すべてのユーザーにフォントを追加する」を参照してください。

第 5 章

MIME タイプ

この章では、MIME タイプおよび MIME データベースについて説明します。また、デスクトップへのアプリケーションの追加方法についても説明します。

MIME タイプの概要

MIME (*Multipurpose Internet Mail Extension*) タイプは、ファイルの書式を特定します。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができます。Web ブラウザや電子メールなどのアプリケーションは、MIME タイプを使用して異なるタイプのファイルを扱います。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、MIME タイプを使用して電子メールに添付されているファイルのタイプを検知できます。

ファイルマネージャは MIME タイプを使用してファイルの種類を識別します。ファイルマネージャは、以下のタスクを実行するために MIME タイプを知る必要があります。

- 正しいアプリケーションでファイルを開く
- ファイルのタイプを説明する文字列を表示する
- ファイルを表す適切なアイコンを表示する
- そのファイルを開くことが可能な別のアプリケーションのリストを表示する

新しいアプリケーションをデスクトップに追加する場合は、そのアプリケーションに関連付けられるファイルを、ほかのアプリケーションが認識できる必要があります。新しいアプリケーションが新しい MIME タイプを必要としているかどうかを確認し、新しいアプリケーションによって新しい MIME タイプが確実にインストールされるようにする必要があります。

この章では、MIME データベースについて説明し、さらにアプリケーションがどのように MIME タイプに関連付けられるのかを説明します。また、この章では、新しいアプリケーションをデスクトップに追加するための手順についても説明します。

MIME データベース

MIME タイプの情報は、データベースに格納されます。MIME データベースは、`/usr/share/mime/` にあります。MIME データベースには多数の MIME タイプが含まれ、それらの MIME タイプは `/usr/share/mime/packages/freedesktop.org.xml` ファイルに格納されます。アプリケーションは、新しい MIME タイプを MIME データベースに追加できません。

アプリケーションは、MIME データベースを使用して、次の方法でファイルの MIME タイプを検出します。

- アプリケーションが、ファイルの内容を確認した後、MIME データベースを使用して該当する MIME タイプを特定します。MIME データベースには、ファイルタイプ判別パターン情報が含まれています。ファイルタイプ判別パターン情報には、ファイル内の特定のパターンの詳細が含まれています。MIME データベースは、このパターンを MIME タイプに関連付けます。アプリケーションは、ファイルのパターンを調べます。アプリケーションがファイルの内容がそのパターンと一致していることを見つけると、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになります。

MIME データベースの `magic` 要素によって、ファイルタイプ判別パターン情報が指定されます。

- アプリケーションが、ファイル名を確認した後、MIME データベースを使用して該当する MIME タイプを識別します。MIME データベースは、特定のファイル拡張子とファイル名パターンを特定の MIME タイプに関連付けます。アプリケーションは、ファイル名を調べて、ファイル名の特定のパターンを検索します。ファイル名との一致が見つると、その拡張子またはパターンに関連付けられている MIME タイプが、ファイルの MIME タイプになります。

MIME データベースの `glob` 要素によって、ファイル名のパターンとファイル拡張子のパターンの情報が指定されます。

MIME データベースには、各 MIME タイプのテキストによる説明も含まれています。また、MIME タイプの表示または編集に使用できるアプリケーションのリストも含まれています。

MIME データベースの構造

次は、MIME タイプデータベースのサンプルです。

```
<mime-type type="image/png">
  <comment>PNG image</comment>
  <comment xml:lang="de">PNG-Grafik</comment>
  :
```

```

:
:
<magic priority="50">
  <match offset="0" type="string" value="\x89PNG" />
</magic>
<glob pattern="*.png" />
</mime-type>

```

表 5-1 は、MIME タイプデータベースの要素です。

表 5-1 MIME タイプデータベースの要素

要素	説明
mime-info	これは、文書要素で、MIME データベースの最高レベルの要素です。この要素には、すべての MIME タイプに必要な情報が含まれています。この要素のネームスペース URI は次のとおりです。 http://www.freedesktop.org/standards/shared-mime-info
mime-type	1 つの MIME タイプを説明します。この要素は type 属性を持ち、MIME タイプを指定します。
comment	ユーザーインターフェースで使用される MIME タイプの説明です。説明は、ファイルマネージャおよびほかのアプリケーションで表示できます。 データベースには、xml:lang 属性を持つ comment 要素が含まれます。この要素によって、ほかの言語で説明することができます。
magic	match 要素が含まれます。match 要素は、ファイルの内容で検索する特定のパターンを指定します。 これによって、ファイル内の特定のパターンが mime-type 要素で指定される MIME タイプに関連付けられます。アプリケーションがそのパターンとの一致を見つけると、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになります。 magic 要素には、priority 属性が含まれます。パターンの優先順位値を指定できます。MIME データベースの magic 要素に同一パターンがある場合、最高の優先順位の要素が優先されます。 match 要素の属性については、58 ページの「 match 要素の属性 」を参照してください。
glob	MIME タイプと一致するファイル名のパターンを指定します。このファイル名のパターンと一致するファイルはどれでもこの MIME タイプになります。

表 5-1 MIME タイプデータベースの要素 (続き)

要素	説明
root-XML	<p>ファイルが XML ファイルとして識別される場合、text/xml よりも限定的な MIME タイプをファイルに関連付けることができます。これを行うには、root-XML 要素の次の属性に値を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ namespaceURI: XML ファイルのタイプを一意に識別するネームスペースを入力します。 ■ localName: XML ファイルのローカル名を入力します。この名前は、XML ファイルのネームスペース内の MIME タイプを一意に識別します。 <p>この要素は任意です。この要素は例には示されていません。</p>

match 要素の属性

表 5-2 は、match 要素の属性です。

表 5-2 match 要素の属性

属性	説明
offset	<p>パターンを検索する前に、ファイル内で無視する文字数を指定します。整数値を指定します。これによって、パターンを検索する前にファイル内で無視する文字数が指定されます。</p> <p>あるいは、検索する文字の範囲を指定することもできます。たとえば、offset="1:10" と指定した場合、最初の 10 文字だけが検索されます。</p>
type	<p>検索するパターンのタイプを指定します。この属性には、次のタイプが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ big16 ■ big32 ■ byte ■ host16 ■ host32 ■ little16 ■ little32 ■ string
value	<p>検索するパターンを指定します。</p>

表 5-2 match 要素の属性 (続き)

属性	説明
mask	<p>パターンマスクを指定します。パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別します。</p> <p>文字列のマスクは、16 進数形式で、0x から始まる必要があります。</p> <p>この属性は省略可能です。この属性は例には示されていません。</p>

MIME データベースから生成されるファイル

新しい MIME タイプがインストールされると、MIME データベースを更新するために `update-mime-database` コマンドが実行されます。表 5-3 は、`update-mime-database` コマンドによって生成されるファイルです。

表 5-3 `update-mime-database` によって生成されるファイル

ファイル	説明
globs	<p>globs ファイルは、MIME データベースの glob 要素、および packages ディレクトリにある MIME タイプ記述ファイルの glob 要素から生成されます。globs ファイルには、MIME タイプおよびそのファイルタイプに関連付けられているファイル名のパターンの簡単なリストが含まれています。</p> <p>次は、globs ファイルのエントリの例です。</p> <pre>application/x-bzip-compressed-tar:*.tar.bz2 text/html:*.html image/png:*.png</pre> <p>MIME データベースの glob 要素に 2 つの同一ファイル名パターンがある場合、アルファベット順で後に来る MIME タイプ記述ファイルのエントリだけが globs ファイルに追加されます。たとえば、MIME タイプ記述ファイル <code>abc.xml</code> および <code>def.xml</code> で glob 要素に同一のファイル名パターンが含まれる場合、<code>def.xml</code> の glob 要素だけが globs ファイルに追加されます。つまり、アルファベット順で後に来る MIME タイプ記述ファイルのファイル名パターンが優先されます。</p> <p>アルファベット順にかかわらず、ある MIME タイプ記述がほかの MIME タイプ記述より優先されるようにしたい場合は、packages ディレクトリにある <code>Override.xml</code> というファイルに MIME タイプ記述を配置します。</p>

表 5-3 update-mime-database によって生成されるファイル (続き)

ファイル	説明
magic	magic ファイルは、MIME データベースの magic 要素、および packages ディレクトリにある MIME タイプ記述ファイルの magic 要素から生成されます。magic ファイルは、2 進数形式で格納されます。
XMLnamespaces	magic ファイルは、MIME データベースの root-XML 要素から生成されます。このファイルは、XML ファイルタイプが使用する XML ネームスペースをすべて一覧表示します。
content-type/content-subtype.xml	これらのファイルは、MIME データベースの comment 要素から生成されます。

MIME データベースへの MIME タイプの追加

新しい MIME タイプをデータベースに追加するには、アプリケーションが MIME タイプ記述ファイルをインストールする必要があります。MIME タイプ記述ファイルは、MIME タイプをファイルタイプ判別パターン情報、およびファイル拡張子とファイル名パターンに関連付ける XML ファイルです。

次は、MIME タイプ記述ファイルのサンプルです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<mime-info xmlns='http://www.freedesktop.org/standards/shared-mime-info'>
  <mime-type type="image/png">
    <comment>PNG image</comment>
    <comment xml:lang="de">PNG-Grafik</comment>
    :
    :
    :
    <magic priority="50">
      <match offset="0" type="string" value="\x89PNG" />
    </magic>
    <glob pattern="*.png" />
  </mime-type>
</mime-info>
```

MIME タイプ記述ファイルの要素は、MIME データベースの要素と似ています。MIME タイプ記述ファイルの要素については、[56 ページ](#)の「[MIME データベースの構造](#)」を参照してください。

アプリケーションは、MIME タイプ記述ファイルをインストールした後、MIME データベースを更新するために `update-mime-database` コマンドを実行する必要があります。

デスクトップへのアプリケーションの追加

デスクトップにアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーション用にメニュー項目を追加します。メニュー項目の追加方法については、[第 2 章](#)を参照してください。
2. `/usr/share/icons/theme-name/icon-size/apps` に、アプリケーション用のアイコンを追加します。アイコンおよびテーマについては、[第 3 章](#)を参照してください。
3. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用し、その MIME タイプが MIME データベースに自動的に追加されない場合は、`/usr/share/mime/packages/` に MIME タイプ記述ファイルを追加します。
4. アプリケーションが新しい MIME タイプ記述ファイルをインストールする場合は、MIME データベースを更新するために、インストール中に `update-mime-database` コマンドが確実に実行されるようにしてください。
5. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、その MIME タイプ用のアイコンを `/usr/share/icons/theme-name/icon-size/mimetypes` に追加します。アイコンおよびテーマについては、[第 3 章](#)を参照してください。
6. セッションからログアウトし、ログインし直します。

第 6 章

スクリーンセーバーの設定

この章では、スクリーンセーバーの設定を行う方法について説明します。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。

スクリーンセーバーの概要

スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションです。Java Desktop System 用のスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver です。この節では、XScreenSaver アプリケーションの設定方法、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法について説明します。

スクリーンセーバーの設定

デフォルトのスクリーンセーバー設定は、XScreenSaver ファイルに格納されています。このファイルの格納場所は、次の表に示すように、オペレーティング環境によって異なります。

オペレーティングシステム	ファイルの場所
SolarisSolaris	/usr/openwin/lib/app-defaults/XScreenSaver

スクリーンセーバーのアプリケーション設定を変更するには、スクリーンセーバー設定ツールを使用します。スクリーンセーバー設定を変更すると、ホームディレクトリに `$HOME/.xscreensaver` ファイルとして格納されます。スクリーンセーバーの設定については、最新バージョンの『*Java Desktop System Release 3 ユーザーズガイド*』を参照してください。

コマンドを実行してスクリーンセーバー設定ツールを起動することもできます。使用するコマンドは、以下の表に示すように、オペレーティング環境によって異なります。

オペレーティングシステム	コマンド
SolarisSolaris	<code>/usr/openwin/bin/xscreensaver-demo</code>

すべてのユーザー用にデフォルトのスクリーンセーバー設定を行うには、XScreenSaver ファイルを変更します。また、「**XScreenSaver**」ダイアログを使用して、`$HOME/.xscreensaver` ファイルを作成し、そのファイルを XScreenSaver ファイルの場所にコピーすることもできます。

ユーザーのデフォルト設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリから `$HOME/.xscreensaver` ファイルを削除します。`$HOME/.xscreensaver` ファイルが存在しない場合は、XScreenSaver ファイルのデフォルト設定が使用されています。

注 - XScreenSaver のデフォルトの表示動作では、ブランク画面が表示されます。ブランク画面ではユーザーが困惑する恐れがあります。したがって、デフォルトの表示動作を変更することをお勧めします。

スクリーンセーバー設定の変更を有効にするには、以下のコマンドを使用してスクリーンセーバー設定を再読み込みします。

```
# xscreensaver-command -restart
```

注 - このマニュアルの発行時点では、xset アプリケーションは、XScreenSaver で機能していません。スクリーンセーバー設定を変更するには、XScreenSaver ファイルまたは `$HOME/.xscreensaver` ファイルを変更します。

スクリーンセーバーディスプレイの変更

スクリーンセーバーアプリケーションでは、1つ以上のスクリーンセーバーディスプレイを選択できます。スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションです。スクリーンセーバーディスプレイは、XScreenSaver ファイルと \$HOME/.xscreensaver ファイルに記述されています。

Solaris システム上でスクリーンセーバーディスプレイを追加する

新しいスクリーンセーバーディスプレイを追加するには、次の手順を実行します。

1. そのディスプレイ用の実行ファイルを
/usr/openwin/lib/xscreensaver/hacks ディレクトリにコピーします。
2. スクリーンセーバーディスプレイのコマンドを XScreenSaver ファイルまたは \$HOME/.xscreensaver ファイルに追加します。ウィンドウ内ではなく、全画面上でスクリーンセーバーディスプレイを実行するのに必要となる引数を含めます。たとえば、スクリーンセーバーディスプレイを全画面に表示するために、-root オプションを含める場合があります。

Solaris システム上でスクリーンセーバーディスプレイを削除する

Sun Ray™ クライアント上のすべてのユーザーのスクリーンセーバーディスプレイを無効にするには、/usr/openwin/lib/xscreensaver/hacks ディレクトリ名を hacks 以外の名前に変更します。

GNOME デスクトップでは、OpenGL スクリーンセーバーが提供されています。OpenGL ライブラリをインストールしているユーザーは少ないため、デフォルトでは、すべての OpenGL スクリーンセーバーディスプレイが無効に設定されています。OpenGL ライブラリをインストールしているユーザーは、「XScreenSaver」ダイアログを使用して、OpenGL スクリーンセーバーディスプレイを有効に設定できます。

いくつかのスクリーンセーバーは、スクリーンの内容を表示します。セキュリティを損なわないようにするために、画面の内容を表示するスクリーンセーバーディスプレイは、Java Desktop System には含まれません。

注 - XScreenSaver アプリケーションの PAM (*Pluggable Authentication Modules*) サービス名は、`dtsession` です。この名前は、以前のアプリケーションとの互換性のために使用されています。

第 7 章

セッション管理

この章では、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明します。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。

セッションの概要

デスクトップにログインしてから、ログアウトするまでの間をセッションといいます。ログインマネージャによってユーザーが認証されると、セッションマネージャが開始されます。ユーザーは、セッションマネージャによりセッションを管理できます。たとえば、セッションの状態を保存して、次回ログインしたときにそのセッションに戻ることができます。

少なくとも、以下のアプリケーションがセッションで動作します。

- `gnome-session` セッションマネージャ
- GConf X 設定デーモンの `gnome-settings-daemon`
- デスクトップ上でパネルを起動する `gnome-panel` アプリケーション
- Metacity ウィンドウマネージャ
- Nautilus ファイルマネージャ
- `gnome-keyring` デーモン

セッションのデフォルトの設定

次の表は、デフォルトのセッション情報が含まれているファイルを示しています。

ファイル	説明
<code>/usr/share/gnome/default.session</code>	デフォルトのセッションファイル。デフォルトのセッションの詳細は、このファイルに格納されています
<code>\$HOME/.gnome2/session</code>	ユーザーセッションファイル。セッションを変更した場合、その詳細がこのファイルに格納されます

すべてのユーザー用にデフォルトのセッションの詳細を設定する場合は、デフォルトのセッションファイルを変更します。

ユーザーのデフォルトのセッション設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリからセッションファイルを削除します。ユーザーセッションファイルが存在しない場合は、`/usr/share/gnome/default.session` のデフォルト設定が使用されています。

現在のセッションをデフォルトセッションとして保存する場合、`gnome-session-save` コマンドを実行します。

Solaris システム上でのログインスクリプトの使用

Java Desktop System では、システム全体のログインスクリプトやログアウトスクリプトをサポートしていません。セッションマネージャでは、ユーザーは自分のセッションしか設定できません。非セッション管理の起動アプリケーションについては、セッション設定ツールで設定できます。

ヒント – システム全体のログインスクリプトはサポートされていませんが、それに代る方法があります。/usr/dt/config/Xsession.d ディレクトリにスクリプトを作成することで、システム全体のログインスクリプトを作成できます。次のように、スクリプトに名前を付けます。

number-greater-than-1000.name

たとえば、1050.login とします。/usr/dt/config/Xsession.d ファイルについては、dtlogin のマニュアルページの「The XSession File」を参照してください。

第 8 章

ヘルプシステム

この章では、Java Desktop System のヘルプシステムについて説明します。

ヘルプシステムの概要

Java Desktop System のオンラインヘルプのソースドキュメントは XML ファイルです。XML ファイルは、DocBook XML Version 4.1.2 DTD (Document Type Definition) に書き込まれます。DocBook XML ファイルは HTML に変換され、この HTML がヘルプブラウザに表示されます。DocBook XML については、次の URL を参照してください。

<http://www.oasis-open.org/docbook/xml>

Java Desktop System では、次の 2 つのヘルプブラウザにヘルプを表示できます。

- JDSHelp
- Yelp

JDSHelp ブラウザ

JDSHelp ブラウザは、Javahelp ブラウザをベースにしています。Javahelp のファイルフォーマット、Javahelp のドキュメントの作成方法、および階層内でのドキュメントのグループ化方法については、次の URL を参照してください。

<http://java.sun.com/products/javahelp/reference/docs/index.html>

Yelp ブラウザ

Yelp ブラウザは、OMF (*Open Source Metadata Framework*) およびカタログ作成システムを使用します。

OMF ファイル

各マニュアルの XML ファイルには、OMF ファイルが関連付けられています。OMF ファイルには、Yelp ブラウザが使用するマニュアルについての情報が含まれています。OMF ファイルの拡張子は、.omf です。

アプリケーションをインストールすると、OMF ファイルが OMF ファイル用のディレクトリにインストールされます。OMF ファイルディレクトリ内にヘルプドキュメントの関連 OMF ファイルがある場合は、Yelp ブラウザからヘルプドキュメントにアクセスできます。

OMF ファイルには、ヘルプドキュメントに関する以下のような情報が含まれています。

- ヘルプドキュメントの XML ファイルがある場所
- ヘルプドキュメントの題名
- ヘルプドキュメントが属しているサブジェクトカテゴリ

ScrollKeeper カタログ作成システム

ScrollKeeper は、ドキュメント用カタログシステムです。Yelp ヘルプブラウザは、ScrollKeeper を使用してシステム上にマニュアルのカタログを作成します。ScrollKeeper は、Yelp ヘルプブラウザのために OMF ファイル内の情報を管理します。

ScrollKeeper が OMF ファイル内の情報を使用することで、Yelp ヘルプブラウザはシステム上のヘルプドキュメントを検索できます。アプリケーションをインストールすると、OMF ファイルが OMF ファイル用のディレクトリにインストールされます。

ScrollKeeper は、OMF ファイルが関連付けられた各ヘルプドキュメントの目次を作成します。ScrollKeeper は、OMF ファイル内に指定された XML ファイルから目次を作成します。ヘルプドキュメントの目次は Yelp ヘルプブラウザウィンドウの左区画に表示されます。ユーザーは、目次を使って左区画に表示されたヘルプドキュメントに移動できます。OMF ファイルのドキュメントの題名も Yelp ヘルプブラウザウィンドウの左区画に表示されます。

ScrollKeeper には、ヘルプドキュメントが属しているサブジェクトカテゴリの階層が含まれています。ヘルプドキュメントは、Yelp ヘルプブラウザウィンドウの左区画のサブジェクトカテゴリ階層に整理されています。OMF ファイル内のドキュメントのサブジェクトカテゴリは、階層内のドキュメントの位置を決定します。サブジェクトカテゴリの階層は、以下のファイルで定義されます。

`/usr/share/scrollkeeper/Templates/C/scrollkeeper_cl.xml`

ドキュメントのサブジェクトカテゴリは、以下のファイルのサブジェクトカテゴリに対応していなければなりません。

`/usr/share/scrollkeeper/Templates/C/scrollkeeper_cl.xml`

注 - ヘルプドキュメントの XML ファイルを新しい場所に移動した場合、OMF ファイル内の場所情報も更新しなければならない場合があります。

第 9 章

パフォーマンスの改善

この章では、Java Desktop System のパフォーマンスを改善する方法について説明します。

パフォーマンスの改善の概要

この章では、Java Desktop System のパフォーマンスを改善するために変更できるいくつかの設定について説明します。ユーザー設定について値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを使用します。この章のコマンド例では、ユーザー設定ソースの値を変更する方法を示します。

`--direct` および `--config-source` オプションを使用して、設定の必須値またはデフォルト値をセットできます。また、スクリプト内で `gconftool-2` コマンドを使用して、多数の設定値をセットすることもできます。`gconftool-2` コマンドと、このコマンドに使用できるオプションについては、[第 1 章](#)を参照してください。

CPU 使用率の低減

この節では、Java Desktop System の CPU 使用率を減らすための設定について説明します。

CPU リソースをあまり必要としないコントロール テーマオプションを使用する

一部のコントロールテーマオプションは、CPU リソースが限られたシステムでは動作が遅くなる恐れがあります。CPU 使用率を減らすには、次のいずれかのコントロールオプションを使用します。

- Crux
- Mist
- シンプル

コントロールテーマオプションを変更するには、以下のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/interface/gtk_theme option-name
```

Simple を使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/interface/gtk_theme Simple
```

または、テーマ設定ツールで適当なオプションを選択します。

CPU リソースをあまり必要としないウィンドウフ レームオプションを使用する

一部のウィンドウフレームテーマオプションは、ウィンドウフレームを描くのにイメージファイルを読み込みます。ほかのオプションは、より簡単な方法でウィンドウフレームを描きます。

Crux ウィンドウフレームオプションは画像ファイルをロードするので、CPU リソースが限られたシステムでは動作が遅くなる恐れがあります。CPU 使用率を減らすには、以下のいずれかのウィンドウフレームオプションを使用します。

- Atlanta
- Esco
- Mist
- Simple

以下のウィンドウフレームオプションも、Crux よりは CPU リソースの使用率が少なくなります。

- AgingGorilla
- Bright
- Metabox

注 – Metabox は、HighContrastInverse などの反転制御オプションとは正しく動作しません。反転制御オプションを使用する場合は、Atlanta を使ってください。

ウィンドウフレームテーマのオプションを変更するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
option-name
```

Atlanta を使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
Atlanta
```

または、テーマ設定ツールで適切なオプションを選択します。

ヒント – Metacity テーマビューアを使用して、ウィンドウフレームオプションのパフォーマンスを測定したり、オプションをプレビューできます。Metacity テーマビューアを起動するには、次のコマンドを使用します。

```
# metacity-theme-viewer option-name
```

たとえば、Atlanta のパフォーマンスを測定し、Atlanta をプレビューするには、次のコマンドを実行します。

```
# metacity-theme-viewer Atlanta
```

メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。この機能をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/desktop/gnome/interface/menus_have_icons false
```

または、Menus & Toolbars 設定ツールで「メニューにアイコンを表示」オプションの選択を解除します。

スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす

デフォルトでは、デスクトップ環境にログインすると、スプラッシュ画面が表示されます。ログインしている間は、スプラッシュ画面にアイコンが表示されています。スプラッシュ画面をオフにすると、ログインしている間の CPU 使用率を減らせます。

スプラッシュ画面をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

または、セッション設定ツールで「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションの選択を解除します。

パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす

パネルを表示または非表示にするときに、動画形式でパネルを表示または非表示にすることができます。パネルアニメーションをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/apps/panel/global/enable_animations false
```

または、パネル設定ツールで「引出しとパネルのアニメーション」オプションの選択を解除します。

ファイルマネージャのパフォーマンスの改善

Nautilus ファイルマネージャの一部の機能を変更して、パフォーマンスを改善できます。

パフォーマンス設定を変更する

ファイルマネージャには、パフォーマンスに関連する設定があります。各パフォーマンス設定は、3つの値のうち1つを持ちます。次の表は、3つの値を説明しています。

値	説明
always	ローカルファイルと、別のファイルシステム上のファイルの両方に対して、動作を実行する
local_only	ローカルファイルに対してのみ動作を実行する。パフォーマンス設定を local_only セットすると、CPU 使用率は減少する
never	動作を実行しない。パフォーマンス設定を never にセットすると、CPU 使用率とネットワークトラフィックは減少する

次の表は、ファイルマネージャのパフォーマンス設定を説明しています。パフォーマンスを最大にするには、設定値を never に設定します。

設定	説明
show_icon_text	<p>ファイルを表すアイコンで、テキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。テキストファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_icon_text never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します 2. 「アイコンにテキストを表示」設定のオプションを選択します
show_directory_item_counts	<p>フォルダ内のアイテム数をいつ表示するかを指定します。フォルダ内の項目数を表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_directory_item_counts never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します 2. 「アイテム数のカウント」設定のオプションを選択します

設定	説明
show_image_thumbnails	<p>イメージファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定します。サムネイルを表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_image_thumbnails never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します 2. 「サムネイルの表示」設定のオプションを選択します
preview_sound	<p>サウンドファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。サウンドファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/preview_sound never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します 2. 「サウンドファイルをプレビュー」設定のオプションを選択します

サイド区画、ツールバー、ロケーションバーをオフにする

ファイルマネージャには、サイド区画とツールバーをオフにできる設定が含まれています。サイド区画とツールバーをオフにすると、ファイルマネージャのパフォーマンスが改善します。

サイド区画をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/nautilus/preferences/start_with_sidebar false
```

ツールバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/nautilus/preferences/start_with_toolbar false
```

ロケーションバーもオフに設定できます。Ctrl + L キーボードショートカットを使用して、ロケーションバーを必要に応じて表示できます。

ロケーションバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/start_with_location_bar false
```

デスクトップ背景をオフにする

ファイルマネージャには、ファイルマネージャを使用してデスクトップ背景を管理できる設定が含まれています。デスクトップ背景を無効にすることで、パフォーマンスを改善できます。デスクトップ背景を無効にした場合、次の操作を行えません。

- 「デスクトップの背景」メニューの使用
- ファイルマネージャを使用したデスクトップ背景のパターンまたは色の変更
- 「ごみ箱」などのデスクトップの背景オブジェクトの使用。デスクトップの背景オブジェクトは、デスクトップの背景に表示されません

デスクトップ背景を無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/nautilus/preferences/show_desktop false
```

省リソースモードを有効化して CPU 使用率を減らす

Metacity ウィンドウマネージャは、ウィンドウの移動およびサイズ変更の際にワイヤフレームとしてウィンドウを描画するための、省リソースモードを備えています。省リソースモードがオンの場合、ウィンドウの移動やサイズ変更を行うと、ウィンドウの外枠のみが表示されます。移動またはサイズ変更中、ウィンドウの内容を更新する必要がないからです。ウィンドウの内容は、移動またはサイズ変更が終了すると表示されます。また、省リソースモードが有効な場合は、ウィンドウの移動およびサイズ変更時にウィンドウがアニメーション化されません。

省リソースモードを有効にするには、以下のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set
/apps/metacity/general/reduced_resources true
```

Solaris システムで mediaLib ライブラリを使用する

mediaLib™ ライブラリは、共通のマルチメディア操作を高速化する関数の集まりです。mediaLib ライブラリがシステムにインストールされている場合、Java Desktop Systemはこのライブラリを使用します。Java Desktop Systemのパフォーマンス、特にファイルマネージャは、mediaLib ライブラリがインストールされていると著しく向上します。Java Desktop Systemでは、mediaLib version 2.0 以降が必要です。

mediaLib ライブラリの入手方法およびインストール方法については、次の URL にある mediaLib の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/processors/vis/mlib.html>

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減

この節では、Java Desktop System で X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減少させる設定について説明します。

ネットワークトラフィックの少ないウィンドウフレームテーマオプションを使用する

リモートディスプレイプロトコルは、ピクセルブロック内のピクセルがすべて同じ色の場合、そのブロック内のすべてのピクセルを転送しません。

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減らすには、単一色を使用するウィンドウフレームテーマオプションを使用します。つまり、次のいずれかのウィンドウフレームオプションを使用します。

- Mist
- Simple

テーマオプションの変更方法については、76 ページの「[CPU リソースをあまり必要としないウィンドウフレームオプションを使用する](#)」を参照してください。

メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンが別のファイルシステム上にある場合、この機能が原因で X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。また、パネルがリモートホスト上で表示される場合も、X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。たとえば、Sun Ray サーバーでパネルを起動し、そのパネルを Sun Ray クライアント上で表示する場合があります。

この機能を無効にする方法については、77 ページの「[メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす](#)」を参照してください。

省リソースモードを有効化してネットワークトラフィックを減らす

ウィンドウを表示するアプリケーションがリモートホストで実行されている場合は、省リソースモードを有効にすると X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが減少します。

省リソースモードについては、81 ページの「省リソースモードを有効化して CPU 使用率を減らす」を参照してください。

Solaris システムで色の使用を減らし表示品質を改善する

多くの現代のコンピュータシステムが 24 ビット色 (16,777,216 色) をサポートします。しかし、多くのユーザーが今だ 8 ビット色 (256 色) をサポートするシステムを使用しています。

Java Desktop System は、*websafe* カラーパレットを使用します。このパレットは 216 色の汎用パレットであり、8 ビット色をサポートするシステム上での色の使用を最適化するように設計されています。一方、Java Desktop System の一部の視覚構成要素は、24 ビット色をサポートするシステム用に設計されています。

以下に示す表示上の問題が、8 ビットをサポートするシステムで発生する可能性があります。

- ウィンドウ、アイコン、および背景イメージの粒子が粗くなる可能性があります。多くのテーマ、背景イメージ、およびアイコンは、*websafe* カラーパレットにはない色を使用します。パレットにない色は、最も近い色またはディザ処理した近似色に入れ替わります。このように色の入れ替えが原因で、粒子が粗くなります。
- *websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、利用可能な色が少なくなります。このためカラーエラーが発生する可能性があります。一部の色が、アプリケーションのユーザーインタフェース上に現れない可能性があります。また、アプリケーションが色を割り当てることができない場合に、一部のアプリケーションで障害が発生する可能性があります。
- *websafe* カラーパレットを使用するアプリケーションと、このカラーパレットを使用しないアプリケーションとの間で切り替えを行うと、色の点滅が発生する場合があります。*websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、カスタムカラーマップを使用している可能性があります。カスタムカラーマップが使用されている場合、ほかの視覚構成要素が色を失い、見えなくなる可能性があります。

このあとの節では、8 ビット色をサポートするシステムで、Java Desktop System デスクトップの外観を最適化する方法について説明します。

websafe カラーパレットを使用するテーマオプションを使用する

一部のウィンドウフレームテーマオプションは、websafe カラーパレット内の色を使用します。Bright と Esco は、websafe カラーパレットを使用します。Bright と Esco は、8 ビットのカラーディスプレイでのほかのウィンドウフレームオプションのように粒子が粗くありません。8 ビットのビジュアルモードでは、Bright または Esco を使用すると色がきれいに表示されます。

テーマオプションの変更方法については、76 ページの「CPU リソースをあまり必要としないウィンドウフレームオプションを使用する」を参照してください。

メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンに websafe カラーパレットにはない色が含まれている場合、この機能によって使用される色の数が増えます。

この機能を無効にする方法については、77 ページの「メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす

スプラッシュ画面をオフにすると、Java Desktop System およびアプリケーションが利用できる色が増えます。

スプラッシュ画面をオフにする方法については、78 ページの「スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

デスクトップ背景に単一色を使用して色の使用を減らす

デスクトップ背景には単一色を使用します。単一色の使用により、Java Desktop System が使用する色の数が減ります。

デスクトップ背景に単一色をセットするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/picture_options none  
  
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/color_shading_type solid
```

```
# gconftool-2 --type string --set  
/desktop/gnome/background/primary_color \#hexadecimal-color
```

または、デスクトップの背景設定ツールでデスクトップ背景の単一色を選択します。

第 10 章

Java Desktop System の機能の無効化

この章では、Java Desktop System の特定の機能が無効にする方法について説明します。

Java Desktop System の機能の無効化の概要

Java Desktop System には、Java Desktop System の特定の機能へのアクセスを制限する機能があります。無効化機能は、コンピュータ上で実行できるユーザーのアクションを制限したい場合などに役立ちます。たとえば、トレードショーにコンピュータを出展し、誰もが操作できるようにした場合は、コマンドラインでの操作を無効にした方が安全です。無効化機能は、ロックダウン機能としても知られています。

機能を無効するには、GConf キーを設定します。GConf キーの設定方法については、第 1 章を参照してください。GConf エディタ アプリケーションを使用して、設定ソースの GConf キーを設定することもできます。GConf エディタ アプリケーションについては、『*GConf Editor Desktop Application Manual*』を参照してください。

スクリーンロックを無効にする

スクリーンロック機能を無効にするには、`/apps/panel/global/disable_lock_screen` キーを `true` に設定します。

スクリーンロック機能を無効化すると、次の項目がパネルから削除されます。

- 「メインメニュー」の「画面のロック」メニュー項目

- 「パネルに追加」→「アクション」メニューの「ロック」メニュー項目。このメニューを開くには、パネル上の空きスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「アクション」を選択します
- 「メニューバー」パネルアプリケーション上の「アクション」メニューの「画面のロック」メニュー項目

また、パネル上の「画面のロック」ボタンも無効になります。

ログアウトを無効にする

ログアウト機能を無効にするには、`/apps/panel/global/disable_log_out` キーを `true` に設定します。

ログアウト機能を無効化すると、次の項目がパネルから削除されます。

- 「メインメニュー」の「*user* をログアウト」メニュー項目
- 「パネルに追加」→「アクション」メニューの「ログアウト」メニュー項目
- 「メニューバー」パネルアプリケーション上の「アクション」メニューの「*user* をログアウト」メニュー項目

また、パネル上の「ログアウト」ボタンも無効になります。

強制終了操作を無効にする

強制終了機能を無効にするには、`/apps/panel/global/disable_force_quit` キーを `true` に設定します。

強制終了機能を無効にすると、「強制終了」メニュー項目が、「パネルに追加」→「アクション」メニューから削除されます。また、パネル上の「強制終了」ボタンも無効になります。

コマンドライン操作を無効にする

コマンドラインからの操作を無効にするには、
`/desktop/gnome/lockdown/disable_command_line` キーを `true` に設定します。

コマンドライン操作を無効にすると、次の項目がパネルから削除されます。

- 次のコマンドを含むメニュー項目
 - 端末コマンド (`/usr/bin/gnome-terminal`)
 - `/usr/bin/xterm`
 - `/usr/bin/setterm`
- 項目は、次のメニューから削除されます。
 - メインメニュー
 - 「パネルに追加」 → 「メニューからランチャー」
- メインメニューおよび「パネルに追加」 → 「ユーティリティ」メニューの「コマンドライン」アプレット
- 次のメニューの「アプリケーションの実行」メニュー項目
 - メインメニュー
 - 「パネルに追加」メニューの「アクション」サブメニュー
 - 「メニューバー」パネルアプリケーションの「アクション」メニュー

パネル設定を無効にする

パネル設定を無効にするには、`/apps/panel/global/locked_down` キーを `true` に設定します。

パネル設定を無効にすると、ユーザーインターフェースが次のように変更されます。

- 次の項目は、「パネル」ポップアップメニューおよび「引き出し」ポップアップメニューから削除されます。
 - 「パネルに追加」
 - 「パネルを削除」
 - 「設定」
 - 「新規パネル」
- 次の項目は、パネルオブジェクトのポップアップメニューから削除されます。
 - 「パネルから削除」
 - 「ロック」

- 「移動」
- 「プロパティ」メニュー項目は、「ランチャー」ポップアップメニューから削除されます。
- 「メインメニュー」ポップアップメニューは無効になります。
- ランチャーのドラッグ機能は無効になります。そのため、ランチャーをパネルに移動したり、パネルから移動することができません。
- パネルのドラッグ機能は無効になります。そのため、パネルを別の場所に移動することはできません。

アプリケーションを制限する

ユーザーが起動できるアプリケーションを制限するには、次のキーを使用します。

- /desktop/gnome/lockdown/restrict_application_launching
- /desktop/gnome/lockdown/allowed_applications

ユーザーが起動できるアプリケーションを制限するには、
/desktop/gnome/lockdown/restrict_application_launching キーを true
に設定します。

起動できるアプリケーションを制限すると、ユーザーインターフェースが次のように変更されます。

- 「アプリケーションの実行」項目が次のメニューから削除されます。
 - メインメニュー
 - 「パネルに追加」メニューの「アクション」サブメニュー
 - 「メニューバー」パネルアプリケーションの「アクション」メニュー
- /desktop/gnome/lockdown/allowed_applications キーに記載されているアプリケーションと一致しないメニュー項目はすべて、次のメニューから削除されます。
 - メインメニュー
 - 「パネルに追加」メニューの「アクション」サブメニュー
 - 「パネルに追加」メニューの「メニューからランチャー」サブメニュー
 - 「メニューバー」パネルアプリケーションの「アクション」メニュー
- パネル、引き出し、またはデスクトップ上のランチャーをダブルクリックしたときに、そのアプリケーションが
/desktop/gnome/lockdown/allowed_applications キーに記載されていないと、警告ダイアログが表示されます。アプリケーションは起動されません。
- ファイルを開こうとしたときに、そのファイルの MIME タイプが
/desktop/gnome/lockdown/allowed_applications キーに記載されていないアプリケーションに関連付けられている場合、警告ダイアログが表示されます。アプリケーションは起動されません。

- 特定のコマンドが `/desktop/gnome/lockdown/allowed_applications` キーに記載されていない場合、それに対応するメニュー項目はメニューから削除されます。次の表を参照してください。

コマンド	メニュー項目	メニュー
<code>/usr/bin/gnome-search-tool</code>	「ファイルの検索」	メインメニュー 「メニューバー」パネルアプリケーションの「アクション」メニュー 「パネルに追加」→「アクション」
<code>/usr/bin/yelp</code>	ヘルプ	メインメニュー
<code>/usr/bin/gnome-panel-screenshot</code>	「スクリーンショット」	「パネルに追加」→「アクション」

付録 A

隠しディレクトリ

この付録では、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明します。

隠しディレクトリとは、ディレクトリ名の先頭にピリオド (.) が付くディレクトリのことです。表 A-1 は、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリを示しています。

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ

ディレクトリ	説明
<code>.esd_auth</code>	GNOME サウンドデーモン用の認証クッキーが含まれています。GNOME サウンドデーモンは、ESD (Enlightened Sound Daemon) です
<code>.gconf</code>	ユーザーの GConf 構成ソースが含まれています。ユーザーが環境を設定すると、新しい設定情報がこの場所に追加されます
<code>.gconfd</code>	以下の GConf デーモンの詳細が含まれています <ul style="list-style-type: none">■ 構成情報■ IOR (<i>Interoperable Object Reference</i>) によって参照されるオブジェクトのロック情報■ IOR によって参照されるオブジェクトの状態情報
<code>.gnome</code>	GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリには MIME タイプ情報やユーザーのセッション情報が含まれています

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
.gnome2	<p>GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは以下のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーボードショートカット情報 ■ ウィンドウの場所に関する情報 ■ パネルランチャー用のデスクトップエントリファイル <p>このディレクトリは、ユーザー固有のメタデータも含みます。ユーザーがメタデータを変更した場合、詳細がここに格納されます</p>
.gnome2-private	<p>このディレクトリは使用されていません。このマニュアルの発行時点では、このディレクトリに機能はありません</p>
.metacity	<p>Metacity ウィンドウマネージャ用のセッションデータが含まれています</p>
.nautilus	<p>ユーザー固有のファイルマネージャデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは次のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーが作業するディレクトリ用のメタデータ ■ ユーザーが追加する Nautilus エンブレム ■ Nautilus デスクトップ背景イメージ
.themes	<p>ユーザーが追加した制御テーマオプション、ウィンドウフレームテーマオプション、アイコンテーマオプションが含まれています。テーマの設定ツールでテーマを追加できます</p>
.thumbnails	<p>イメージサムネイルが含まれています。イメージサムネイルは、ファイルマネージャで使用されます。ファイルマネージャには、サムネイルイメージの生成の停止を選択できる設定があります</p>
.xscreensaver	<p>スクリーンセーバ構成データとスクリーンセーバ設定データが含まれています</p>

用語集

CORBA	Common Object Request Broker Architecture
.desktop ファイル	「デスクトップエントリファイル」を参照
.directory ファイル	「ディレクトリエントリファイル」を参照
GConf スキーマ	スキーマキーとスキーマオブジェクトの総称
GConf スキーマオブジェクト	設定キーに関する情報を含む設定ソース内の要素。スキーマオブジェクトは、設定キーのデフォルト値、設定キーの説明などの情報を持つ
GConf スキーマキー	設定キーのスキーマオブジェクトを格納するキー。たとえば、 <code>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</code> は、 <code>/desktop/gnome/interface/font_name</code> 設定キーのスキーマキーである
GConf スキーマ定義ファイル	GConf スキーマ定義ファイルには、特定のアプリケーションのキーが含まれており、それらのキーの特性を定義する。GConf スキーマは、スキーマ定義ファイルから生成される。スキーマ定義ファイルには、 <code>.schemas</code> ファイル拡張子が付く
GConf 設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素。たとえば、 <code>/apps/gnome-session/options/show_splash_screen</code> キーは、セッション設定ツールの「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応する
GConf 設定ソース	GConf リポジトリ内の保存場所。たとえば、 <code>xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults</code>
GConf パスファイル	GConf 構成ソースとソースの検索順序がリストされたファイル
IOR (Interoperable Object Reference)	IOR は、CORBA オブジェクトに対する文字列参照。IOR は、オブジェクトを制御するためにメッセージを送信できるホスト名とポートをエンコードする。IOR は、オブジェクトを識別するオブジェクトキーを持っている
MIME	Multipurpose Internet Mail Extension の略

MIME タイプ	MIME タイプは、ファイルの形式を識別する。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができる。たとえば、電子メールアプリケーションは、image/png MIME タイプを使用して、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識する
MIME タイプ記述ファイル	MIME タイプをファイルタイプ判別パターン情報に関連付ける XML ファイル
NFS	ネットワークファイルシステム
.omf ファイル	「 OMF ファイル 」を参照
OMF ファイル	Open Source Metadata Framework ファイル。OMF ファイルは、マニュアルの XML ファイルに関連付けられる。OMF ファイルには、ヘルプブラウザが使用するマニュアルについての情報が含まれている。OMF ファイルのファイル拡張子は、.omf
ORB	Object Request Broker
PAM	プラグイン可能認証モジュール (Pluggable Authentication Module)
SMB	Server Message Block
UDP	ユーザーデータグラムプロトコル
URI (Uniform Resource Identifier)	URI (Uniform Resource Identifier) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列。たとえば、Web ページのアドレスは URI である
vfolder	システム上の物理的な場所に存在する項目の仮想表現。たとえば、vfolder が、いくつかのディレクトリの内容を表す場合がある。メニューにおいて vfolder は、物理的には複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になる
vfolder 情報ファイル	XML 形式の vfolder の説明ファイル。vfolder 情報ファイルは、メニューの構造を指定する
websafe カラーパレット	websafe カラーパレットは、汎用の 216 色のパレット。websafe カラーパレットは、8 ビット色をサポートするシステムにおける色の使用を最適化するように設計されている。websafe カラーパレットは、「Netscape カラーパレット」または「Netscape カラーキューブ」とも呼ぶ
アプリケーションレジストリ	アプリケーションレジストリとは、アプリケーションを登録するテキストファイルが含まれる場所を示す。デスクトップのアプリケーションレジストリの場所は、 <code>/usr/share/gnome/application-registry</code> である
スクリーンセーバー	スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションのこと。Java Desktop System 用のスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver

スクリーンセーバー ディスプレイ	スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションのこと
ディレクトリエントリ ファイル	メニューについての情報を提供するデータファイル。ディレクトリエントリファイルは、メニューの名前、メニューのツールチップ、メニューを表すアイコンなどの詳細を指定する。ディレクトリエントリファイルには、 <code>.directory</code> ファイル拡張子が付く
デスクトップエントリ ファイル	メニュー内の項目についての情報を提供するデータファイル。デスクトップエントリファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定する。デスクトップエントリファイルには、 <code>.desktop</code> ファイル拡張子が付く
パターンマスク	パターンマスクは、ファイルタイプ検索ツール内の一連の 16 進数文字。パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別する
ファイルタイプ検索ツール	ファイルタイプ判別パターンは、ファイル内で判別するパターンを指定する。ファイルタイプ判別パターンは、 <code>MIME</code> タイプとパターンを関連付ける。パターンとの一致が見つかると、そのパターンに関連付けられている <code>MIME</code> タイプがファイルの <code>MIME</code> タイプになる

索引

C

CPU 使用率, 減らす, 75-82

G

GConf

HTTP プロキシの設定, 24

概要, 13

キーボードアクセシビリティの設定, 24-25

キーボードショートカットの設定, 25

構成ソース, 15-16

コマンドラインツール, 20-23

スキーマ, 16-17

スキーマオブジェクト, 16-17

スキーマキー, 16-17

スキーマ定義ファイル

概要, 17-18

パネルおよびパネルオブジェクト, 26-28

スプラッシュイメージの設定, 31

設定値, 23

デーモン, 18-20

デフォルト設定値の復元, 31

背景, 設定, 30

パネルオブジェクトの環境の設定, 25-29

パネルの設定の個別に設定, 25-29

フォントの設定, 30

リポジトリ, 14-18

ワークスペースの数の設定, 24

H

HTTP プロキシ, GConf による設定, 24

M

mediaLib ライブラリ, CPU の使用, 81-82

MIME タイプ

アプリケーションの追加, 61

概要, 55

検出, 56

MIME タイプの検出, 56

O

OMF ファイル, 72

S

ScrollKeeper カタログ作成システム, 72-73

V

vfolder, 34-36

vfolder 情報ファイル, 35

X

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィック、低減, 82-83

あ

アプリケーション, 追加, 61

い

色の使用, 減らす, 83-85

か

隠しディレクトリ, 93-94

き

キーボード

GConf によるショートカットの設定, 25

GConf を使ったアクセシビリティの設定, 24-25

機能の無効化

アプリケーションを制限する, 90-91

概要, 87

強制終了, 88

コマンドライン, 89

スクリーンロック, 87-88

パネル設定, 89-90

ログアウト, 88

し

省リソースモード

CPU の使用, 81

ネットワークトラフィック, 83

有効化, 81

す

スキーマ

スキーマオブジェクト, 16-17

スキーマ (続き)

スキーマキー, 16-17

スキーマ定義ファイル

概要, 17-18

パネルおよびパネルオブジェクト, 26-28

説明, 16-17

スクリーンセーバー

概要, 63

スクリーンセーバーディスプレイの変更, 65-66

設定, 63-64

スプラッシュ画面

CPU 使用率, 78

イメージ、GConf による設定, 31

色の使用, 84

オフにする, 78

せ

セッション

概要, 67

デフォルトの設定, 68

ログインスクリプト, 68-69

設定値

GConf による設定, 23

GConf によるデフォルトへの復元, 31

て

低減, X ウィンドウシステムのネットワークトラ

フィック, 82-83

ディレクトリエントリファイル, 38

テーマ

CPU の使用, 76

アイコンオプション

インストール, 46-47

概要, 44

新しいアイコンのインストール, 47-48

ウィンドウフレームオプション

CPU の使用, 76-77

概要, 43

カラーの使用, 84

ネットワークトラフィック, 82

ウィンドウフレームのオプション

インストール, 46

変更, 77

テーマ (続き)
概要, 43-44
カラーの使用, 84
コントロールオプション
CPU の使用, 76
インストール, 45
概要, 43
カスタムの作成, 48-49
変更, 76
ネットワークトラフィック, 82
デスクトップ, フォント設定、GConf による設定, 30
デスクトップエントリファイル, 36-37
デスクトップ背景, オフにする, 81

ね
ネットワークトラフィック、低減, 82-83

は
背景
設定、GConf による設定, 30
単一色の使用, 84-85
パネル
アニメーションをオフにする, 78
設定、個別、GConf による設定, 25-29
パフォーマンス、改善、概要, 75
パフォーマンスの改善、CPU 使用率を減らす, 75-82

ひ
表示品質の改善, 83-85

ふ
ファイル抽象レイヤー、メニュー, 34
ファイルマネージャ
サイド区画をオフにする, 80-81
ツールバー、オフにする, 80
デスクトップ背景、オフにする, 81
パフォーマンス設定の変更, 78-80
メニューの追加, 39

ファイルマネージャ (続き)
ロケーションバー、オフにする, 80
フォント
GConf による設定, 30
概要, 51
個別ユーザーに追加, 52-53
すべてのユーザーに追加, 52
置換, 51-52

へ
減らす
CPU 使用率, 75-82
色の使用, 83-85
ヘルプ
JDSHelp, 71
Yelp
OMF ファイル, 72
ScrollKeeper カタログ作成システム, 72-73
概要, 71

め
メニュー
vfolder, 34-36
vfolder 情報ファイル, 35
概要, 33
項目の追加, 40
設定の編集, 40
ファイル抽象レイヤー, 34
ファイルマネージャによる追加, 39
編集, 38-41
メニュー項目の削除, 41
メニュー項目の編集, 40-41
メニューファイルを使用して追加, 39-40
ユーザーが変更できないメニューを設定, 41
メニューアイコン
CPU の使用, 77
色の使用, 84
オフにする, 77
ネットワークトラフィック, 82

わ

ワークスペース, GConf による数の設定, 24